

リハビリテーション専門職による訪問サービスの 実施状況調査結果

宮城県リハビリテーション支援センター

リハビリテーション専門職による訪問サービスは、医療保険制度及び介護保険制度にて提供されています。

本調査は、**障害児者（40歳未満の障害を持った方）**の地域リハビリテーションの推進へ繋げることを目的としたものであるため、主に医療保険制度での利用を想定した調査方法にて実施いたしました。

特に、“訪問によるリハビリテーションを提供している医療機関”による利用者数等には、介護保険制度を利用した人数が加わっていないことが想定され、現状と差があることが予想されます。参考値としてご活用いただければ幸いです。

目 次

1	調査の概要	2
2	一次調査結果	3
	(1) 回収率	3
	(2) 一次調査結果（調査対象別）の詳細	3
	① 訪問看護ステーション	3
	(ア) 回収状況	
	(イ) 事業所の所在地の圏域別内訳	
	(ウ) 86 事業所の職員の状況（常勤換算）	
	(エ) リハビリテーション専門職のいる 50 事業所の職種別配置状況	
	(オ) 実施事業所数（利用者の年齢別）	
	(カ) 利用者数	
	(キ) 40 歳未満の利用者をリハビリテーション専門職が訪問している 29 事業所の状況	
	(ク) 訪問エリアと実施日	
	② 訪問リハビリテーション	15
	(ア) 回収状況	
	(イ) 事業所の所在地の圏域別内訳	
	(ウ) 13 事業所の職員の状況（常勤換算）	
	(エ) 職種別配置状況	
	(オ) 実施事業所数（利用者数の年齢別）	
	(カ) 利用者数	
	(キ) 訪問エリアと実施日	
	③ 訪問によるリハビリテーションを提供している医療機関	21
	(ア) 回収状況	
	(イ) 医療機関の所在地の圏域別内訳	
	(ウ) 22 ヶ所の職員の状況（常勤換算）	
	(エ) 職種別配置状況	
	(オ) 実施事業所数（利用者の年齢別）	
	(カ) 利用者数	
	(キ) 40 歳未満の利用者を訪問している 5 ヶ所の状況	
	(ク) 訪問エリアと実施日	
	④ 一次調査結果のまとめ	27
3	二次調査結果	28
	(1) 二次調査対象	28
	(2) 現状	29
	(3) 課題	30
	(4) 対策	31
	(5) 二次調査のまとめ（現状・課題・対策）	32
参考		
1	リハビリテーション専門職による訪問サービスの実施状況調査要領	34
2	別紙調査票	35
3	リハビリテーション専門職による訪問サービスの実施状況調査（二次調査）要領	36

1 調査の概要

(1) 目的

リハビリテーション専門職（理学療法士，作業療法士，言語聴覚士）（以下「リハ専門職」という。）が障害児者（40歳未満の方）へ訪問サービスを実施している事業所の状況を把握し，その情報を周知することで，リハ専門職による訪問サービスを必要とする方へサービスが届くことの一助とすること。

また，リハ専門職による障害児者に対する訪問サービスの実態（利用状況，支援経緯，支援内容等）及びリハ専門職が訪問サービスを実施する上での課題を把握し，リハ専門職による訪問サービスを必要とする方へサービスが届くようになるために必要な取り組みを検討したもの。

(2) 方法

本調査は，下記の2回に分けて実施した。

① 一次調査

県内（仙台市を含む）の訪問看護ステーション120ヶ所及び訪問リハビリテーション事業所18ヶ所，在宅患者訪問リハビリテーション指導管理料を算定している医療機関61ヶ所に対し，調査票を送付し回収した。

② 二次調査

一次調査にて，リハ専門職の所在が確認でき，「0歳以上18歳未満」及び「18歳以上40歳未満」の両者に訪問サービスを実施していると回答した訪問看護ステーション15事業所のうち，実施件数及び所在地域を考慮し抽出した8事業所に二次調査依頼を行い，了解が得られた7事業所に対し，事業担当者が訪問し調査内容について聴取した。

(3) 内容

① 一次調査

- (ア) リハ専門職の職種と従業員数等
- (イ) 事業所の訪問エリア
- (ウ) 平成26年8月の1ヶ月間の対象者の状況とその割合（年齢・疾患（障害）別）

② 二次調査

- (ア) 担当者について
- (イ) 利用者の特徴
- (ウ) 利用までの経緯（依頼元・処方元）
- (エ) 利用状況（利用年数・利用頻度・1回あたりの時間）
- (オ) 支援内容（処方内容，本人への支援内容・家族への支援内容，他機関連携内容等）
- (カ) 支援する上での課題（不安なこと，不安の解消法等）
- (キ) 必要な取り組み

(4) 結果の活用

① 一次調査

リハ専門職による訪問サービスを実施している事業所等一覧を作成し，関係機関・事業所への周知，宮城県のホームページで公表する。

② 二次調査

把握した情報から，現状・課題・対策を整理し，平成27年度以降の地域リハビリテーション推進に係る事業に活かす。

把握した情報及び整理した情報については，関係機関（依頼元となる機関（市町村・相談支援事業所等），処方元となる医療機関，職能団体，県機関等）と共有し，今後の対策を検討する材料とする。

2 一次調査結果

(1) 回収率

調査対象	送付数	回答数	回収率
訪問看護ステーション	120	87	73%
訪問リハビリテーション	18	13	72%
在宅患者訪問リハビリテーション指導管理料算定医療機関	61	36	59%

(2) 一次調査結果（調査対象別）の詳細

① 訪問看護ステーション

(ア) 回収状況

- ・ 県内の訪問看護ステーション：120 事業所
- ・ 返信があった事業所数：87 事業所（回収率 73%）（うち休止 1）
- ・ 休止を除く 86 事業所のうち、リハビリテーション専門職（PT・OT・ST）の従業員がいる事業所：50 事業所（58%）

(イ) 事業所の所在地の圏域別内訳

圏域	仙南	仙台 (塩竈)	仙台 (岩沼)	仙台 (黒川)	北部	栗原	登米	東部	気仙沼	仙台市	合計
事業所数	5	7	9	4	11	3	2	13	4	62	120
返信のあった事業所数①	5	6	8	3	8	1	2	11	2	41	87
リハ専門職を配置している事業所数②	0	4	7	2	3	1	2	7	1	23	50
返信のあった事業所のうちリハ専門職を配置している事業所の割合(②/①)(%)	0%	67%	88%	67%	38%	100%	100%	64%	50%	56%	57%

(ウ) 86 事業所の職員の状況（常勤換算）

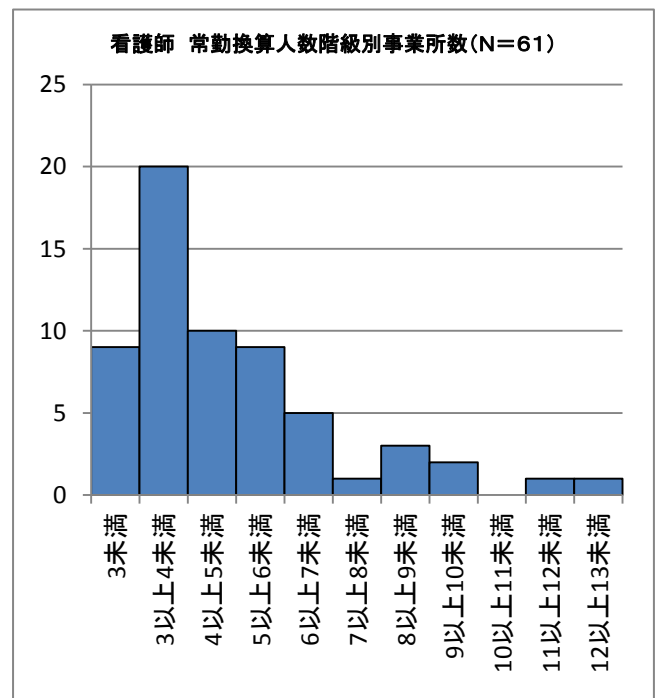
A) 常勤換算人数（看護師）

アンケート回答数 87 のうち、休止 1 をのぞき、看護師の常勤換算人数について回答があった 61 事業所について看護師の常勤換算人数の階級別事業所数及び 1 事業所あたりの配置数等

■看護師（常勤換算人数階級別事業所数等）(N=61)

常勤換算数	事業所数	常勤換算数計
3未満	9	22.80
3以上4未満	20	68.05
4以上5未満	10	42.30
5以上6未満	9	48.10
6以上7未満	5	31.70
7以上8未満	1	7.70
8以上9未満	3	25.00
9以上10未満	2	18.80
10以上11未満	0	0.00
11以上12未満	1	11.00
12以上13未満	1	12.10
計	61	287.55

常勤換算数最大値	12.10
常勤換算数最小値	2.20
1事業所あたりの平均値	4.71
標準偏差	2.19
中央値	4.00



B) 常勤換算人数 (PT)

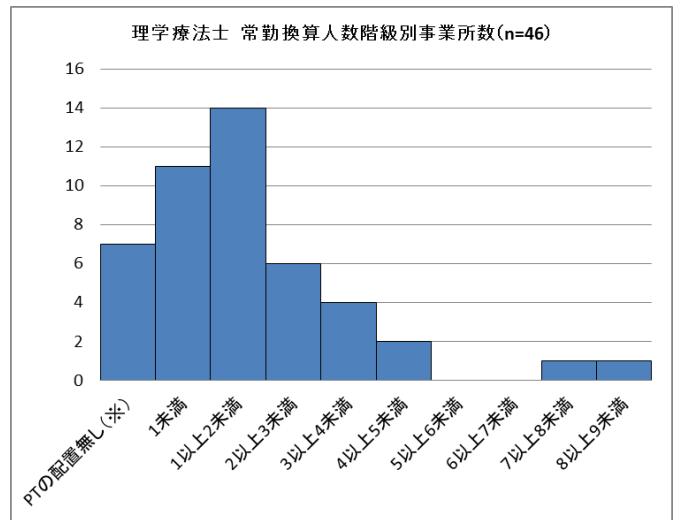
アンケート回答数 87 のうち休止 1 をのぞき, PT, OT, ST のいずれかのリハ専門職の配置がある 50 事業所から, 常勤換算人数について回答があった 46 事業所についての理学療法士の階級別度数分布, 平均値等

■理学療法士(常勤換算数階級別事業所数)(N=46)

常勤換算数	事業所数	常勤換算数計
PTの配置無し(※)	7	0.00
1未満	11	4.20
1以上2未満	14	16.70
2以上3未満	6	12.40
3以上4未満	4	13.50
4以上5未満	2	8.00
5以上6未満	0	0.00
6以上7未満	0	0.00
7以上8未満	1	7.40
8以上9未満	1	8.70
計	46	70.90

(※PT以外のリハ職の配置ありでPTの配置無し)

常勤換算数最大値	8.70
常勤換算数最小値	0.00
1事業所あたりの平均値	1.54
標準偏差	1.80
中央値	1.00



C) 常勤換算人数 (OT)

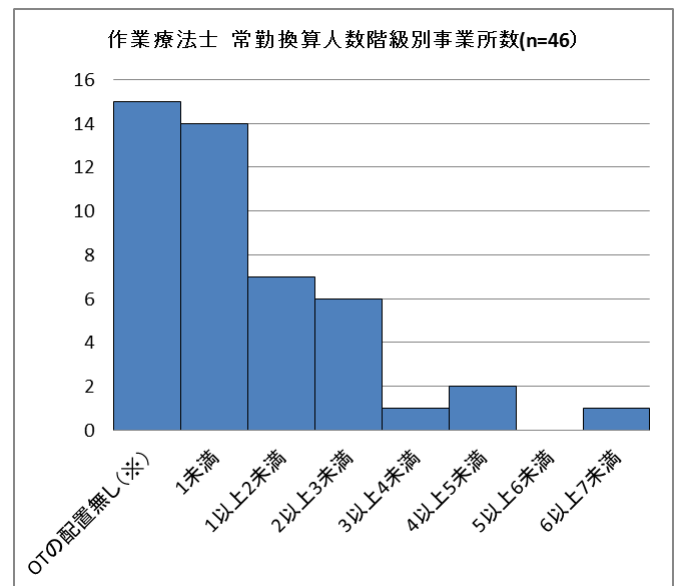
アンケート回答数 87 のうち休止 1 をのぞき, PT, OT, ST のいずれかのリハ専門職の配置がある 50 事業所から, 常勤換算人数について回答があった 46 事業所についての作業療法士の階級別度数分布, 平均値等

■作業療法士(常勤換算数階級別事業所数)(N=46)

常勤換算数	事業所数	常勤換算数計
OTの配置無し(※)	15	0.00
1未満	14	6.10
1以上2未満	7	7.80
2以上3未満	6	13.20
3以上4未満	1	3.00
4以上5未満	2	8.00
5以上6未満	0	0.00
6以上7未満	1	6.00
計	46	44.10

(※OT以外のリハ職の配置ありでOTの配置無し)

常勤換算数最大値	6.00
常勤換算数最小値	0.00
1事業所あたりの平均値	0.96
標準偏差	1.30
中央値	0.40



D) 常勤換算人数 (ST)

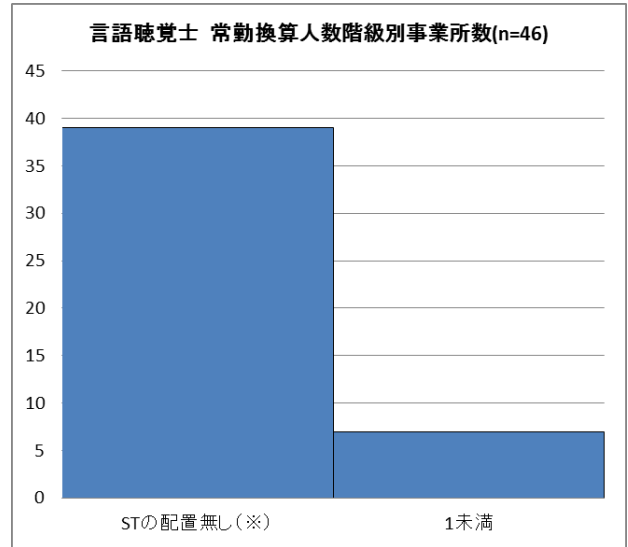
アンケート回答数 87 のうち休止 1 をのぞき、PT、OT、ST のいずれかのリハ専門職の配置がある事業所 50 から、常勤換算人数について回答があった 46 事業所についての言語聴覚士の階級別度数分布、平均値等

■言語聴覚士(常勤換算数階級別事業所数)(N=46)

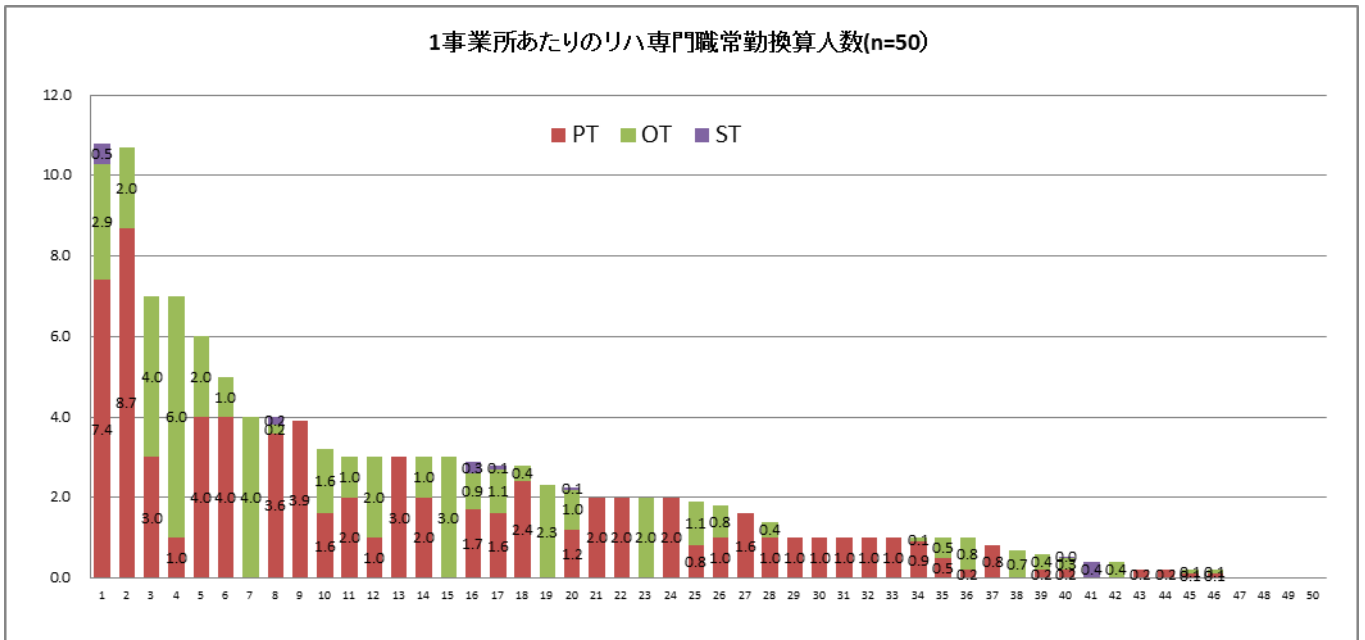
常勤換算数	事業所数	常勤換算数計
STの配置無し(※)	39	0.00
1未満	7	1.59
計	46	1.59

(※ST以外のリハ職の配置ありでSTの配置無し)

常勤換算数最大値	0.50
常勤換算数最小値	0.00
1事業所あたりの平均値	0.03
標準偏差	0.10
中央値	0.00



E) PT、OT、ST のいずれかのリハ専門職の配置がある 50 事業所のリハ専門職の配置状況



(No. 47~50 は常勤換算について回答なし)

常勤換算人数順整理番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
PT	7.4	8.7	3.0	1.0	4.0	4.0		3.6	3.9	1.6	2.0	1.0	3.0	2.0		1.7	1.6	2.4		1.2	2.0	2.0		2.0	0.8
OT	2.9	2.0	4.0	6.0	2.0	1.0	4.0	0.2		1.6	1.0	2.0		1.0	3.0	0.9	1.1	0.4	2.3	1.0			2.0		1.1
ST	0.5							0.2								0.3	0.1			0.1					
計					6.00	5.00	4.00	4.00	3.90	3.20	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	2.90	2.80	2.80	2.30	2.25	2.00	2.00	2.00	2.00	1.90
常勤換算人数順整理番号	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
PT	1.0	1.6	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	0.9	0.5	0.2	0.8		0.2	0.2			0.2	0.2	0.1	0.1	回答なし	回答なし	回答なし	回答なし
OT	0.8		0.4						0.1	0.5	0.8		0.7	0.4	0.3		0.4			0.1	0.1	回答なし	回答なし	回答なし	回答なし
ST															0.0	0.4						回答なし	回答なし	回答なし	回答なし
計	1.80	1.60	1.40	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	0.80	0.70	0.60	0.54	0.40	0.40	0.40	0.20	0.20	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00

わかること

- ・ 常勤換算人数について回答があった46事業所のなかで、PTは39事業所に配置があり常勤換算人数の合計は71.90人、OTは31事業所に配置があり常勤換算人数の合計は44.10人、STは7事業所に配置があり常勤換算人数の合計は1.59人である。
- ・ 常勤換算人数について回答46事業所の1事業所あたりの常勤換算人数の平均値は、PTは1.54人、OTは0.96人、STは0.03人である。また、各中央値は、PT1.00人、OT0.40人、ST0.00人、標準偏差は、PTは1.80、OTは1.30、STは0.10となっている。平均よりも中央値の方が低く、人数を多く配置している事業所と少ない事業所の差がある。
- ・ PTとOTは特に、最大値と最小値の差が大きく、人数を多く配置している事業所と少ない事業所の差があることがわかる。
- ・ STについては、常勤換算人数の最大値が0.50人で、常勤換算人数1人以下の配置である。

(エ) リハビリテーション専門職のいる50事業所の職種別配置状況

PT、OT、STのいずれかのリハ専門職の配置がある事業所50から、勤務形態（常勤専従・常勤兼務・非常勤）別配置状況について回答があった49事業所の配置人数等

■勤務形態別リハ専門職配置の事業所数（単位：事業所数）

	常勤 専従	常勤 兼務	非常 勤	合計
PT	26	13	15	42
OT	16	12	11	33
ST	0	1	8	9

※複数の勤務形態がある事業所は重複計上

■勤務形態別リハ専門職配置状況（単位：人数）

	常勤 専従	常勤 兼務	非常 勤	合計
PT	60	29	34	123
OT	35	17	19	71
ST	0	2	12	14

わかること

- ・ PTを配置しているのは42事業所、OTは33事業所、STは9事業所である。
- ・ PTは42事業所に123人が従事している。123人中60人（48%）は常勤専従で従事しており、29人（23%）は常勤兼務で、34人（27%）は非常勤で従事している。
- ・ OTは33事業所に71人が従事している。71人中35人（49%）は常勤専従で従事しており、17人（23%）は常勤兼務で、19人（26%）は非常勤で従事している。
- ・ STは9事業所に14人が従事している。14人中2人（14%）は常勤兼務で従事しており、12人（85%）は非常勤で従事している。
- ・ PT・OTを配置している事業所のうち、約半数は常勤専従で配置しており、残りの約半数は、常勤兼務や非常勤で配置している。
- ・ STについては、常勤専従で配置している事業所はなく、非常勤での配置が多い。

(オ) 実施事業所数（利用者の年齢別）

PT, OT, ST のいずれかのリハ専門職の配置がある 50 事業所から、リハ専門職が訪問した人数について回答があった 49 事業所の状況

	事業所数	疾患別利用者を見ている事業所数					
		脳血管	神経・筋	脊髄損傷	小児疾患	精神	その他
0以上18歳未満	18	0	2	0	15	0	2
18歳以上40歳未満	25	6	11	7	11	2	3
40歳以上65歳未満	40	34	30	10	9	6	18
65歳以上	46	41	41	20	1	10	42

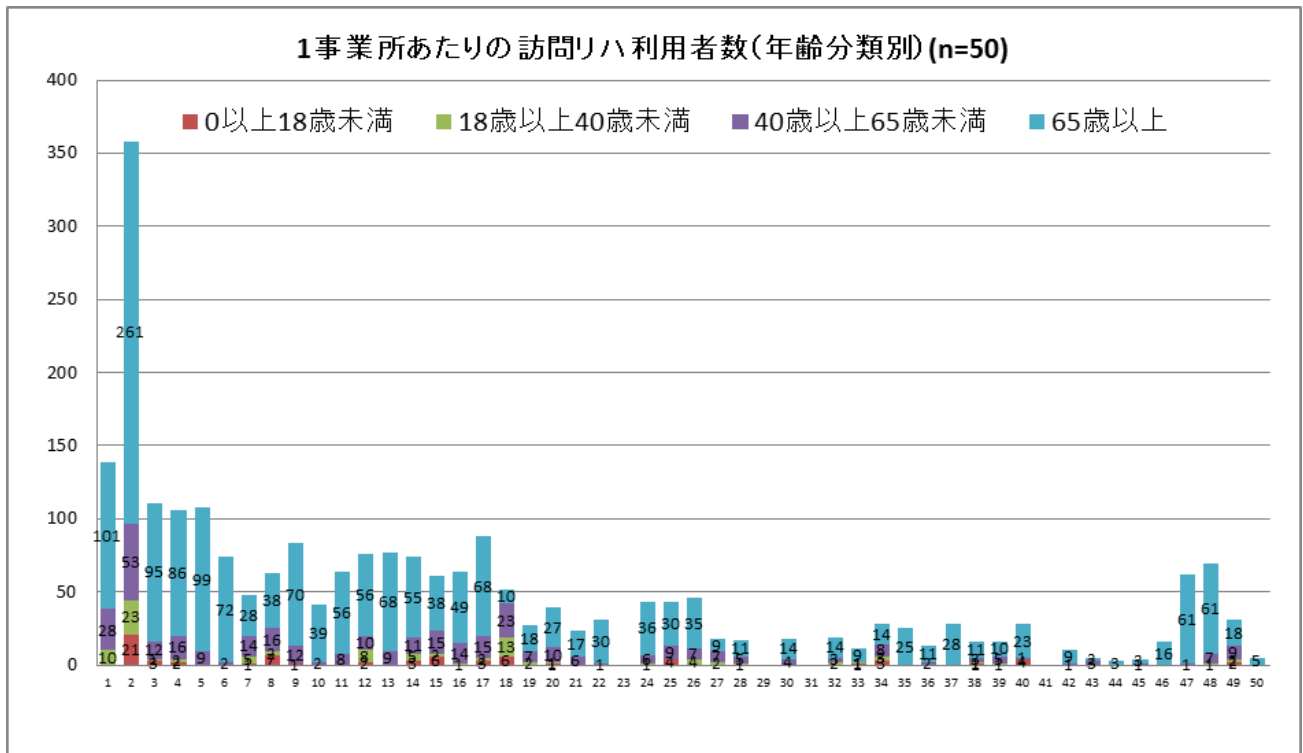
わかること

- ・ 18歳未満の利用者に訪問している事業所は、49事業所中18事業所（37%）、18歳以上40歳未満の利用者に訪問している事業所は25事業所（51%）、40歳以上65歳未満の利用者に訪問している事業所は40事業所（82%）、65歳以上の利用者の訪問している事業所は46事業所（94%）である。
- ・ 0歳以上18歳未満の訪問リハ利用者の疾患は、「小児疾患（先天性疾患）」が多く15事業所が訪問しており、「神経・筋疾患（難病も含む）」は2事業所、「その他疾患」2事業所である。
- ・ 18歳以上40歳未満の訪問リハ利用者の疾患は、「小児疾患（先天性疾患）」と「神経・筋疾患（難病も含む）」が多くそれぞれ11事業所が訪問しており、「脊髄損傷」7事業所、「脳血管・脳外傷疾患」6事業所、「精神疾患」2事業所、「その他疾患」3事業所である。
- ・ 40歳以上65歳未満の訪問リハ利用者の疾患は、「脳血管・脳外傷疾患」が34事業所と最も多く、「神経・筋疾患（難病も含む）」30事業所、「脊髄損傷」10事業所、「小児疾患（先天性疾患）」9事業所、「精神疾患」6事業所、「その他疾患」18事業所である。
- ・ 65歳以上の訪問リハ利用者の疾患は、「脳血管・脳外傷疾患」と「神経・筋疾患（難病も含む）」のそれぞれが41事業所と最も多く、「脊髄損傷」20事業所、「精神疾患」10事業所、「小児疾患（先天性疾患）」1事業所、「その他疾患」が42事業所である。

(カ) 利用者数

PT, OT, ST のいずれかのリハ専門職の配置がある 50 事業所から、リハ専門職が訪問した人数について回答があった 49 事業所の状況

A) 事業所あたりの利用者数及び年齢別利用者数



(常勤換算人数の多い順に並べてある。No. 29, 31, 41 は当該月の利用者なし, No. 23 は回答なし)

常勤換算人数順番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
利用者人数																							
0以上18歳未満		21	3	2			1	7	1			2		3	6		3	6		1			精神
18歳以上40歳未	10	23	1	2			5	2				8		5	2	1	2	13	2	1			精神
40歳以上65歳未	28	53	12	16	9	2	14	16	12	2	8	10	9	11	15	14	15	23	7	10	6	1	精神
65歳以上	101	261	95	86	99	72	28	38	70	39	56	56	68	55	38	49	68	10	18	27	17	30	精神
計	139	358	111	106	108	74	48	63	83	41	64	76	77	74	61	64	88	52	27	39	23	31	195

常勤換算人数順番号	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
利用者人数																									
0以上18歳未満								1	3				1		4										2
18歳以上40歳未	4	2	1				2	1	3				1	1										1	2
40歳以上65歳未	7	7	5		4		3		8		2		3	5	1		1	3		1		1	7	9	
65歳以上	35	9	11		14		14	9	14	25	11	28	11	10	23		9	2	3	3	16	61	61	18	5
計	46	18	17	0	18	0	19	11	28	25	13	28	16	16	28	0	10	5	3	4	16	62	69	31	5

	0歳以上 18歳未満	18歳以上 40歳未満	40歳以上 65歳未満	65歳以上	全体
平均	1.45	1.96	7.65	37.53	48.59
最大	21	23	53	261	358
最小	0	0	0	0	0
標準偏差	3.33	4.02	9.09	42.57	55.60
合計	71	96	375	1,839	2,381

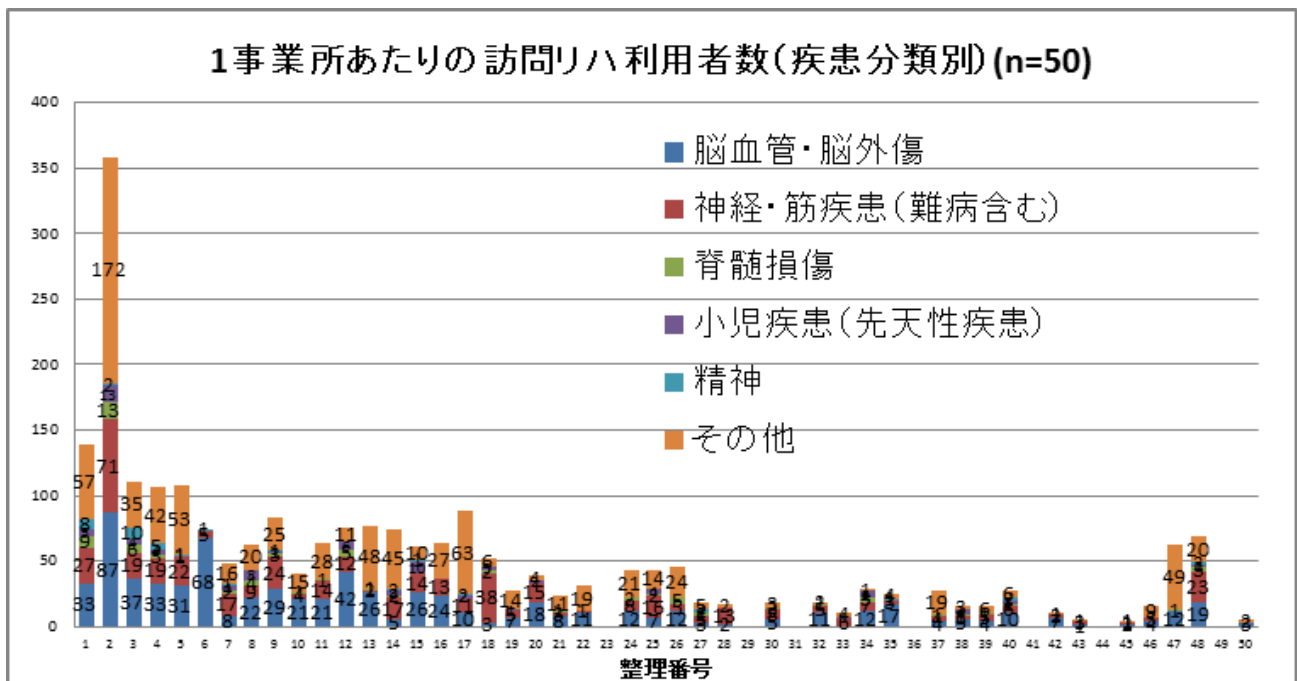
(※No. 23 を除いた平均等)

データからわかること

- 事業所におけるリハ専門職による訪問人数として、10以上20未満の人数を訪問している事業所が最も多く、10事業所(20%)、次いで20以上30未満、60以上70未満の人数を訪問しているのが6事業所(それぞれ12%)となっている。事業所にて100人以上の利用者に訪問しているのは5事業所である。
- 49事業所の1ヶ月に訪問した利用者数の合計は2381人で、1事業所あたりの利用者数の平均は48.59人である。
年齢階級別では、18歳未満で71人、18歳以上40歳未満で96人、40歳以上65歳未満375人、65歳以上1,839人に訪問しており、65歳以上の方への訪問が最も多い。
- 利用者の最も多い事業所では358人に訪問している。常勤換算10.7人のリハ専門職がいる事業所である。
- 事業所によって(事業所における配置人員によって)訪問人数には差がある(差が大きい)。
- 1ヶ月のうち利用者のいない事業所が3ヶ所あり、すべて新規に開設した事業所または、リハ専門職を配置してまだ間もない事業所である。

B) 利用者の疾患別内訳

PT, OT, STのいずれかのリハ専門職の配置がある50事業所から、リハ専門職が訪問した人数の疾患分類別内訳について回答があった46事業所の状況



(常勤換算人数が多い順に並べてある。No. 29, 31, 41 は当該月の利用者なし、No. 23, 36, 44, 49 は回答なし)

常勤換算人数順番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	
利用者人数	33	87	37	33	31	68	8	22	29	21	21	42	26	5	26	24	10	3	7	18	8	11	精神	12	7	
脳血管・脳外傷	27	71	19	19	22	5	17	9	24	4	14	12	2	17	14	13	11	38	5	15	3	1	精神	8	16	
神経・筋疾患(難病含む)	9	13	6	3	1	2	4	3	1	1	5	1	2					2				1	精神	2	2	
脊髄損傷	5	13	4	4			4	8	1			6	3	10			2	3	1	2			精神		4	
小児疾患(先天性疾患)	8	2	10	5	1	1	1		1					2	1		2						精神			
精神	57	172	35	42	53		16	20	25	15	28	11	48	45	10	27	63	6	14	4	11	19	精神	21	14	
その他	計	139	358	111	106	108	74	48	63	83	41	64	76	77	74	61	64	88	52	27	39	23	31	195	43	43

常勤換算人数順番号	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
利用者人数	12	3	2		5		11		12	17		4	5	4	10		7	1		2	4	12	19		3
脳血管・脳外傷	5	5	13		8		5	6	7	3		4	3	5	6		2	3		1	3		23		
神経・筋疾患(難病含む)	5	2			2		1		3			1	1	1	1							1	3		
脊髄損傷		1								1	5				4									2	
小児疾患(先天性疾患)		2								1					2								2		
精神	24	5	2		3		2	4	1	4		19	3	6	6		1	1		1	9	49	20		2
その他	計	46	18	17		18		19	11	28	25	28	16	16	28		10	5		4	16	62	69		5

	利用者人数合計※	疾患別内訳					
		脳血管	神経・筋	脊髄損傷	小児疾患	精神	その他
0歳以上18歳未満	48	0	7	0	39	0	2
18歳以上40歳未満	71	7	27	11	20	3	3
40歳以上65歳未満	313	108	134	16	13	6	36
65歳以上	1544	520	249	39	1	30	705
合計	1976	635	417	66	73	39	746

※ 「利用者人数合計※」は、調査票にて、疾患別内訳の記載が得られた人数を足したもの。5利用者数(1)1事業所あたりの利用者数合計とは数値が異なっている。

データからわかること

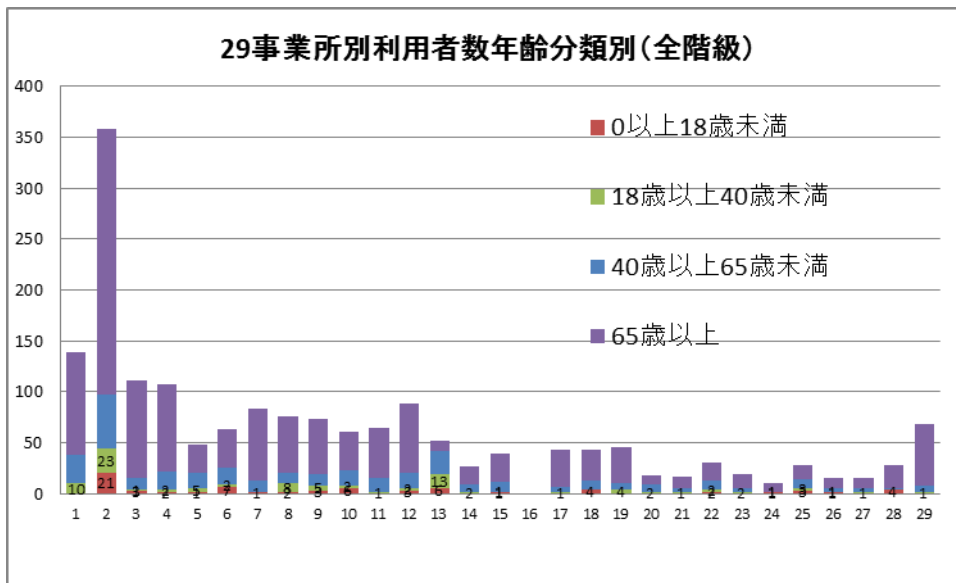
- ・ 訪問看護ステーションのリハビリテーション専門職が訪問している利用者の疾患別内訳としては、「脳血管疾患」645人(32.1%)、「神経・筋疾患」417人(21.1%)、小児疾患73人(3.7%)、「脊髄損傷」66人(3.3%)、「精神疾患」39人(2.0%)、「その他疾患」が746人(37.8%)である。

(キ) 40歳未満の利用者をリハ専門職が訪問している29事業所の状況

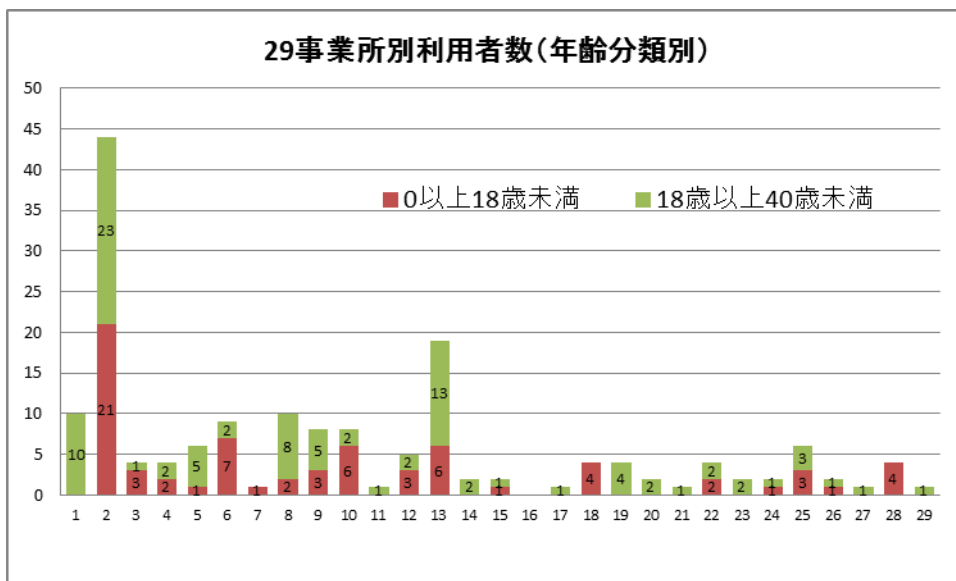
A) 事業所所在地の圏域別内訳と利用者数

事業所内訳		仙南	仙台 (塩釜)	仙台 (岩沼)	仙台 (黒川)	北部	栗原	登米	東部	気仙沼	仙台市	合計
0以上18 歳未満	事業所数	0	1	3	1	2	1	1	2	0	7	18
	利用者数	0	4	6	1	8	7	2	6	0	37	71
18以上40 未満	事業所数	0	1	3	1	2	1	1	4	1	11	25
	利用者数	0	1	7	1	10	2	2	9	2	62	96
合計事業所数		0	2	6	1	2	1	1	4	1	11	29
合計利用者数		0	5	13	2	18	9	4	15	2	29	167

B) 29事業所別利用者数



(常勤換算人数が多い順に並べてある。No. 16は回答なし)



(常勤換算人数が多い順に並べてある。No. 16は回答なし)

わかること

- 40歳未満の利用者に訪問している事業所は29事業所あり、すべて40歳以上の利用者也訪問している事業所である。どの事業所においても、事業所における40歳以上の利用者に比べると割合としては少ない。
- リハ専門職の常勤換算人数が多い事業所が、40歳未満の利用者数が多いということではなく、事業所の特徴として40歳未満の利用者の割合が多い事業所もあるようである。

C) 29事業所の疾患分類別利用者数

I. 0歳以上18歳未満へ訪問している18事業所について

0~18未満 脳血管	度数	0~18未満 神経・ 筋	度数	0~18未満 脊髄損 傷	度数	0~18未満 小児疾 患	度数	0~18未満 精神	度数	0~18未満 その他	度数
記載なし	4	記載なし	4	記載なし	4	記載なし	4	記載なし	4	記載なし	4
平均	0	平均	1.29	平均	0	平均	2.41	平均	0	平均	1.00
最大	0	最大	6	最大	0	最大	7	最大	0	最大	1
最小	0	最小	1	最小	0	最小	1	最小	0	最小	1
合計	0	合計	7	合計	0	合計	39	合計	0	合計	2
事業所数	0	事業所数	2	事業所数	0	事業所数	15	事業所数	0	事業所数	2
割合	0%	割合	11%	割合	0%	割合	83%	割合	0%	割合	11%

わかること

- 0歳以上18歳未満の利用者で、「神経・筋疾患」の利用者に訪問しているのは2事業所であり、2事業所で9人の訪問をしている。
- 「小児疾患」は、15事業所で39人を訪問しており、1事業所あたりの訪問平均は2.4人、最大7人、最小1人訪問している。
- 「その他疾患」に訪問しているのは2事業所であり、それぞれ1人訪問している。

II. 18歳以上40歳未満を見ている18事業所について

18~40未満 脳血管	度数	18~40未満 神経・筋	度数	18~40未満 脊髄損 傷	度数	18~40未満 小児疾 患	度数	18~40未満 精神	度数	18~40未満 その他	度数
記載なし	4	記載なし	4	記載なし	4	記載なし	4	記載なし	4	記載なし	4
平均	1.04	平均	1.67	平均	1.17	平均	1.38	平均	1.04	平均	1.00
最大	2	最大	10	最大	3	最大	4	最大	2	最大	1
最小	1	最小	1	最小	1	最小	1	最小	1	最小	1
合計	7	合計	27	合計	11	合計	20	合計	3	合計	3
事業所数	6	事業所数	11	事業所数	7	事業所数	11	事業所数	2	事業所数	3
割合	24%	割合	44%	割合	28%	割合	44%	割合	8%	割合	12%

わかること

- 18歳以上40歳未満の利用者で「脳血管疾患」の利用者へは、6事業所で10人を訪問しており、1事業所あたりの訪問人数は平均1.2人、最大4人、最小1人である。
- 「神経・筋疾患」は、11事業所で37人を訪問しており、1事業所あたりの訪問人数は平均2.1人、最大値13人、最小1人である。
- 「脊髄損傷」は、7事業所で11人を訪問しており、1事業所あたりの訪問人数は平均1.2人、最大値3人、最小値1人である。
- 「小児疾患」は、11事業所で28人を訪問しており、1事業所あたりの訪問人数は平均1.7人、最大値12人、最小値1人である。
- 「その他疾患」は3事業所でそれぞれ1人ずつ訪問している。

(ク) 訪問エリアと実施日

A) 活動区域（訪問エリア）：市町村を訪問エリアとしている事業所数

圏域	仙南								
	白石市	角田市	蔵王町	七ヶ宿町	大河原町	村田町	柴田町	川崎町	丸森町
市町村									
訪問エリアとしている事業所数(n=86)	1	2	2	1	2	2	4	1	2
40歳未満に訪問している(訪問エリアとしている)事業所数(n=29)	1	2	2	1	2	2	4	1	2

圏域	仙台(塩竈)					仙台(岩沼)			
	塩竈市	多賀城市	松島町	七ヶ浜町	利府町	名取市	岩沼市	亶理町	山元町
市町村									
訪問エリアとしている事業所数(n=86)	5	5	3	4	6	14	7	4	1
40歳未満に訪問している(訪問エリアとしている)事業所数(n=29)	2	2	1	2	2	7	5	4	1

圏域	仙台(黒川)				北部				
	大和町	大郷町	富谷町	大衡村	大崎市	色麻町	加美町	涌谷町	美里町
市町村									
訪問エリアとしている事業所数(n=86)	4	4	7	1	4	1	1	3	4
40歳未満に訪問している(訪問エリアとしている)事業所数(n=29)	1	1	5	0	2	1	1	1	2

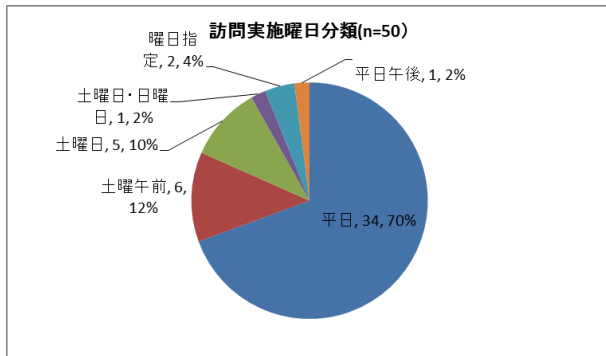
圏域	栗原	登米	東部			気仙沼	
	栗原市	登米市	石巻市	東松島市	女川町	気仙沼市	南三陸町
市町村							
訪問エリアとしている事業所数(n=86)	1	5	7	4	3	0	1
40歳未満に訪問している(訪問エリアとしている)事業所数(n=29)	1	4	3	2	2	0	1

圏域	仙台市				
	青葉区	宮城野区	若林区	太白区	泉区
市町村					
訪問エリアとしている事業所数(n=86)	14	17	16	22	16
40歳未満に訪問している(訪問エリアとしている)事業所数(n=29)	9	9	7	11	9

わかること

- ・ 事業所所在地を圏域別で分類すると、事業所がない圏域があるが、訪問エリアで見ると、訪問する事業所数には差があるが、すべての地域（市町村区）に訪問している状況である。
- ・ 40歳未満に訪問している29事業所においても、ほとんどの市町村区を訪問エリアとしている状況がある。

B) 訪問実施曜日・時間



(グラフ中の略語)

平日：月～金

土曜午前：月～金及び土曜日の午前中

土曜日：月～土

土曜日・日曜日：月～日

曜日指定：特定の曜日のみ訪問対応

平日午後：月～金の午後

わかること

- 平日を訪問実施曜日としている事業所が 34 事業所 (68%) と最も多いが、土曜日も訪問実施事業所としている事業所も 13 事業所 (26%) ある。

② 訪問リハビリテーション

(ア) 回収状況

- ・ 訪問リハビリテーション：18ヶ所
- ・ 返信があった事業所数：13事業所（回収率72%）（すべてにリハ専門職が配置されている）

(イ) 事業所の所在地の圏域別内訳

圏域	仙南	仙台 (塩釜)	仙台 (岩沼)	仙台 (黒川)	北部	栗原	登米	東部	気仙沼	仙台市	合計
事業所数①	3	1	1	0	1	3	1	4	1	3	18
返信のあった事業所数②	3	1	0	0	1	2	1	3	0	2	13
回収率(②/①)(%)	100%	100%	0%		100%	67%	100%	75%	0%	67%	72%

(ウ) 13事業所の職員の状況（常勤換算）

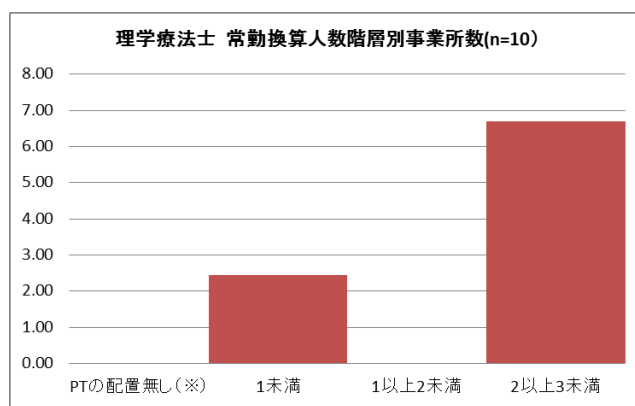
A) 常勤換算人数（PT）

■理学療法士（常勤換算数階級別事業所数）（N=13）

常勤換算数	事業所数	常勤換算数計
PTの配置無し(※)	0	0.00
1未満	7	2.45
1以上2未満	0	0.00
2以上3未満	3	6.70
回答なし	3	
計	13	9.15

（※PT以外のリハ職の配置ありでPTの配置無し）

常勤換算数最大値	2.70
常勤換算数最小値	0.10
1事業所あたりの平均値	0.70
標準偏差	0.92
中央値	0.45



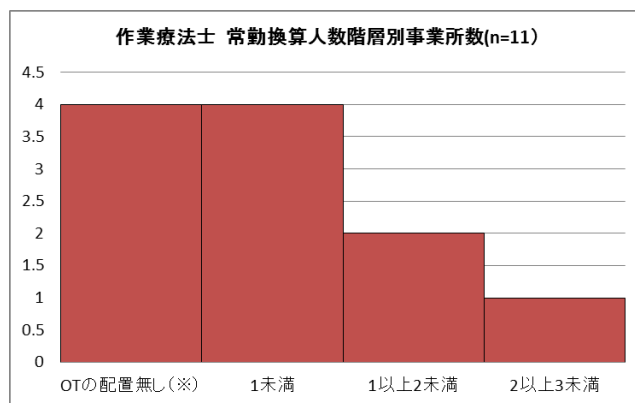
B) 常勤換算人数（OT）

■作業療法士（常勤換算数階級別事業所数）（N=13）

常勤換算数	事業所数	常勤換算数計
OTの配置無し(※)	4	0.00
1未満	4	1.25
1以上2未満	2	2.00
2以上3未満	1	2.00
回答なし	2	
計	13	5.25

（※OT以外のリハ職の配置ありでOTの配置無し）

常勤換算数最大値	2.00
常勤換算数最小値	0.00
1事業所あたりの平均値	0.40
標準偏差	0.63
中央値	0.10



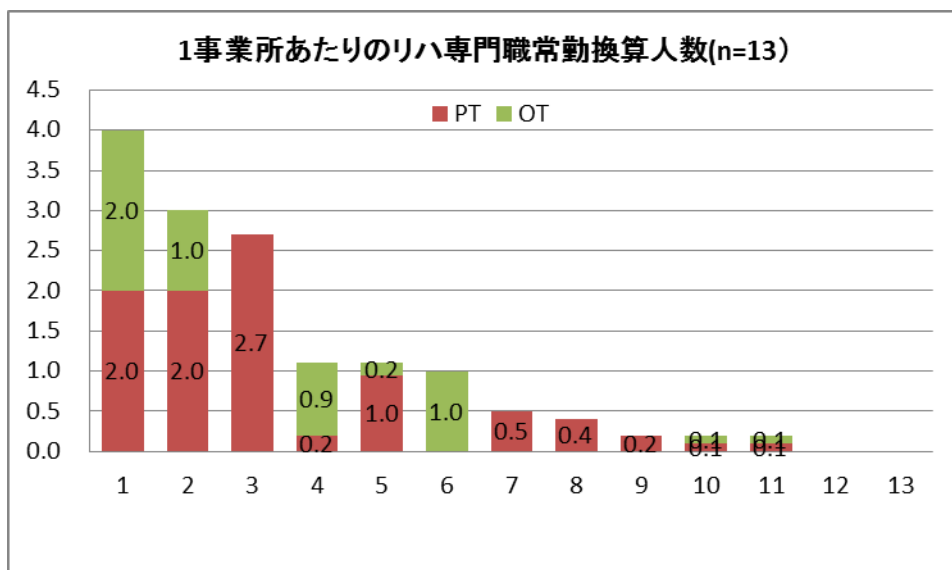
C) 常勤換算人数 (ST)

■言語聴覚士(常勤換算数階級別事業所数)(N=13)

常勤換算数	事業所数	常勤換算数計
STの配置無し(※)	11	0.00
記載なし	2	
計	13	0.00

(※ST以外のリハ職の配置ありでSTの配置無し)

常勤換算数最大値	0.00
常勤換算数最小値	0.00
1事業所あたりの平均値	0.00
標準偏差	0.00
中央値	0.00



(No. 12, 13 は常勤換算について回答なし)

わかること

- PTは、常勤換算人数について回答があった10事業所のすべてに配置があり、常勤換算人数の合計は15人、OTは、常勤換算人数について回答のあった11事業所のうち7事業所に配置があり、常勤換算人数の合計は22人である。
- STは常勤換算人数の回答がなかったため、数値としては把握できないが、常勤兼務として、1事業所で配置されている。
- 常勤換算人数の平均は、PTは0.7人、OTは44.1人、STは0人である。また、各中央値は、PT0.45人、OT0.10人、ST0人、標準偏差は、PT0.92、OT0.63、ST0となっており、平均値よりも中央値のほうが低く、人数を多く配置している事業所と少ない事業所の差がある。
- 常勤換算人数は、平均するとPT・OT・STいずれの職種も1人未満である。

(エ) 職種別配置状況

(単位：事業所数)

職種別	常勤専従	常勤兼務	非常勤	合計
PT	3	8	1	10
OT	3	5	2	7
ST	0	1	0	1

(単位：人数)

職種別	常勤専従	常勤兼務	非常勤	合計
PT	0	14	1	15
OT	4	15	3	22
ST	0	1	0	1

※複数職種がいる事業所は重複で計上

わかること

- ・ PTを配置しているのは、10事業所、OTは7事業所、STは1事業所である。
- ・ PTは、10事業所に15人が従事している。15人中14人(93%)は常勤兼務で従事しており、1人(6%)は非常勤で従事している。常勤専従の事業所はない。
- ・ OTは7事業所に22人が従事している。22人中4人(18%)は常勤専従で従事しており、15人(68%)は常勤兼務で、3人(13%)は非常勤で従事している。
- ・ STは1事業所に1人が従事しており、常勤兼務で従事している。
- ・ 常勤専従のリハ専門職を配置している事業所は、4事業所である。常勤専従ではなく、常勤兼務での従事が多い状況がある。
- ・ 訪問リハビリテーションを実施している事業所の多くが、介護老人保健施設に併設している事業所が多いことから、常勤兼務での従事が多い。

(オ) 実施事業所数 (利用者数の年齢別)

	事業所数	疾患別内訳					
		脳血管	神経・筋	脊髄損傷	小児疾患	精神	その他
40歳以上65未満	7	6	3	0	0	0	0
65歳以上	10	10	6	3	0	2	8

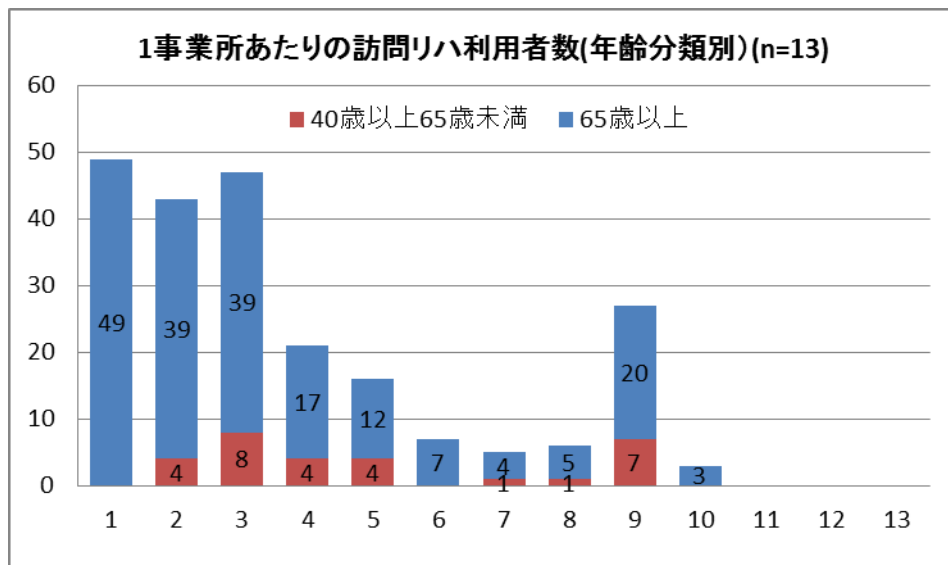
※介護保険サービスであるため、40歳未満の利用者はいない。

わかること

- ・ 40歳以上65歳未満の利用者に訪問している事業所は13事業所中7ヶ所(53%)、65歳以上の利用者に訪問している事業所は13事業所中10事業所(76%)である。
- ・ 40歳以上65歳未満の利用者に訪問している7事業所のうち、「脳血管・脳外傷疾患」の方へ6事業所が訪問しており、「神経・筋疾患(難病も含む)」3事業所が訪問している。
- ・ 65歳以上の利用者に訪問している事業所は、10事業所のうち10事業所が「脳血管・脳外傷疾患」の方へ訪問しており、「神経・筋疾患(難病も含む)」が6事業所、「脊髄損傷」が3事業所、「精神疾患(認知症も含む)」が2事業所、「その他疾患」が8事業所に訪問している。

(カ) 利用者数

A) 1 事業所あたりの利用者数及び年齢別利用者数



(常勤換算人数が多い順に並べてある。No. 11, 12 は当該月の利用者なし, No. 13 は回答なし)

常勤換算人数順番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
利用者人数													
40歳以上65歳未満		4	8	4	4		1	1	7				回答なし
65歳以上	49	39	39	17	12	7	4	5	20	3			回答なし
計	49	43	47	21	16	7	5	6	27	3	0	0	

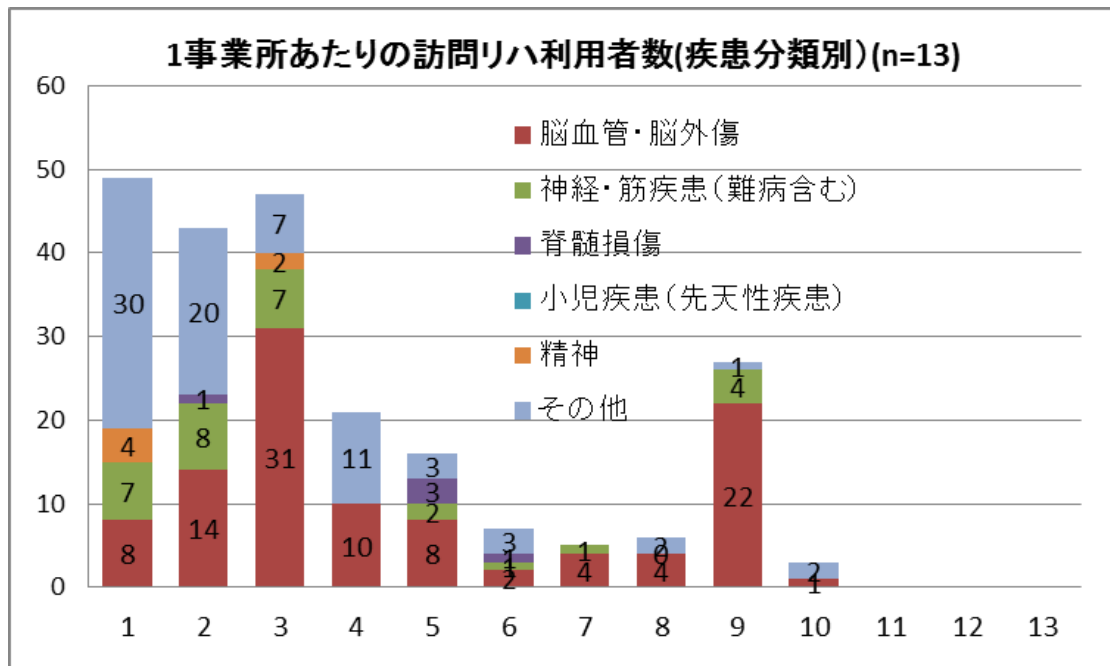
	40歳以上65歳未満	65歳以上	全体
平均	2.42	16.25	18.67
最大	8	49	49
最小	0	0	0
標準偏差	2.78	16.35	17.85
合計	29	195	224

(No. 7 を除いた平均等)

わかること

- ・ 12 事業所の 1 ヶ月に訪問した利用者数の合計は 224 人で、1 事業所あたりの平均は 18.6 人である。
- ・ 年齢階級別では、40 歳以上 65 歳未満で 29 人(12%)、65 歳以上で 195 人 (87%) に訪問している。
- ・ 利用者の最も多い事業所では 49 人に訪問している。常勤換算 4 人のリハ専門職がいる事業所である。
- ・ 13 事業所のうち 2 事業所は、利用者がいない事業所である。いずれも、新規で立ち上がった事業所または、リハ専門職を配置して間もない事業所のようなものである。

B) 利用者の疾患別内訳



(常勤換算人数が多い順に並べてある。No. 11, 12は当該月の利用者なし, No. 13は回答なし)

利用者人数	常勤換算人数順番号												
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
脳血管・脳外傷	8	14	31	10	8	2	4	4	22	1			
神経・筋疾患(難病含む)	7	8	7		2	1	1	0	4				
脊髄損傷		1			3	1							
小児疾患(先天性疾患)													
精神	4		2										
その他	30	20	7	11	3	3		2	1	2			
計	49	43	47	21	16	7	5	6	27	3			

	利用者人数合計※	疾患別内訳					
		脳血管	神経・筋	脊髄損傷	小児疾患	精神	その他
40歳以上65未満	29	26	3	0	0	0	0
65歳以上	195	78	27	5	0	6	78

わかること

- ・ 40歳以上65歳未満の29人のうち、26人(89%)が脳血管疾患の利用者であり、残り3人(10%)が神経・筋疾患の方である。
- ・ 65歳以上の195人のうち、脳血管疾患とその他疾患がそれぞれ78人(40%)であり、27人(13%)は神経筋疾患、6人(3%)は精神(認知症を含む)、5人(2%)は脊髄損傷の利用者である。
- ・ 事業所によって、利用者の疾患分類については差がある。

(キ) 訪問エリアと実施日

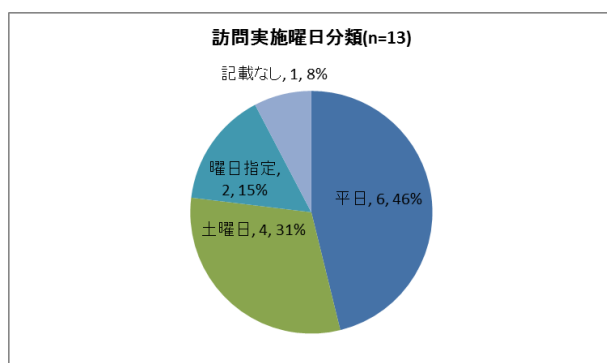
A) 活動区域（訪問エリア）：市町村を訪問エリアとしている事業所数

圏域	仙南									仙台(塩釜)				
	白石市	角田市	蔵王町	七ヶ宿町	大河原町	村田町	柴田町	川崎町	丸森町	塩竈市	多賀城市	松島町	七ヶ浜町	利府町
訪問エリアとしている事業所数(n=13)	0	2	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0

圏域	仙台(岩沼)				仙台(黒川)				北部				
	名取市	岩沼市	亶理町	山元町	大和町	大郷町	富谷町	大衡村	大崎市	色麻町	加美町	涌谷町	美里町
訪問エリアとしている事業所数(n=13)	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1

圏域	栗原	登米	東部			気仙沼		仙台市				
	栗原市	登米市	石巻市	東松島市	女川町	気仙沼市	南三陸町	青葉区	宮城野区	若林区	太白区	泉区
訪問エリアとしている事業所数(n=13)	4	3	3	2	0	0	0	2	0	0	0	0

B) 訪問実施曜日・時間



(グラフ中の略語)

平日：月～金

土曜午前：月～金及び土曜日の午前中

土曜日：月～土

土曜日・日曜日：月～日

曜日指定：特定の曜日のみ訪問対応

平日午後：月～金の午後

わかること

- 訪問看護ステーションにおける訪問エリアと比較して、訪問エリアとしては広く設定していない事業所が多い。

③ 訪問によるリハビリテーションを提供している医療機関

(ア) 回収状況

- ・ 県医療整備課調べ平成25年9月時点算定医療機関：61ヶ所
- ・ 返信があった医療機関数：36ヶ所（回収率59%）
- ・ 36ヶ所のうち、リハビリテーション専門職（PT・OT・ST）の従事員がいる医療機関数：22ヶ所（58%）

(イ) 医療機関の所在地の圏域別内訳

圏域	仙南	仙台 (塩竈)	仙台 (岩沼)	仙台 (黒川)	北部	栗原	登米	東部	気仙沼	仙台市	合計
事業所数	3	5	2	2	8	5	3	8	2	23	61
返信のあった事業所数①	1	4	1	2	6	4	0	5	1	12	36
リハ専門職を配置している事業所数②	0	4	1	2	3	2	0	3	1	6	22
返信のあった事業所のうちリハ専門職を配置している事業所の割合(②/①)(%)	0%	100%		100%	50%	50%		60%	100%	50%	61%

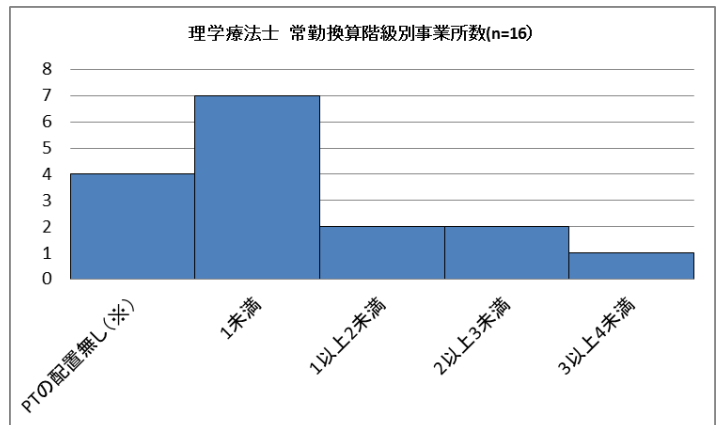
(ウ) 22ヶ所の職員の状況（常勤換算）

A) 常勤換算人数（PT）

■理学療法士（常勤換算数階級別事業所数）(N=16)

常勤換算数	事業所数	常勤換算数計
PTの配置無し(※)	4	0
1未満	7	1.51
1以上2未満	2	2
2以上3未満	2	4.5
3以上4未満	1	3.1
計	16	11.11

(※PT以外のリハ職の配置ありでPTの配置無し)



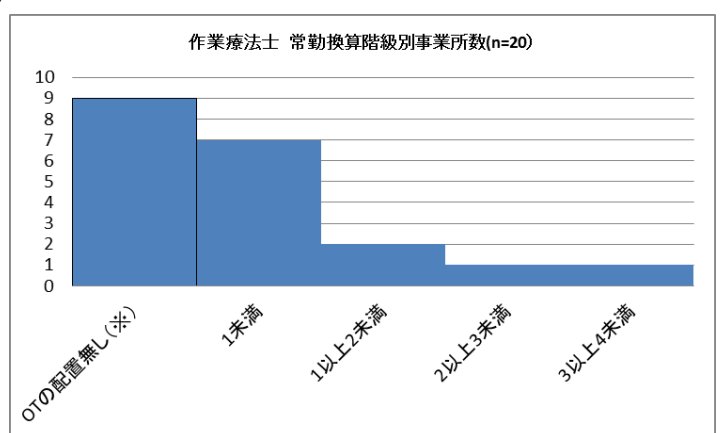
常勤換算数最大値	3.1
常勤換算数最小値	0
1事業所あたりの平均値	0.69
標準偏差	0.89
中央値	0.25

B) 常勤換算人数（OT）

■作業療法士（常勤換算数階級別事業所数）(N=20)

常勤換算数	事業所数	常勤換算数計
OTの配置無し(※)	9	0
1未満	7	1.13
1以上2未満	2	2.8
2以上3未満	1	2.1
3以上4未満	1	3
計	20	9.03

(※OT以外のリハ職の配置ありでOTの配置無し)



常勤換算数最大値	3
常勤換算数最小値	0
1事業所あたりの平均値	0.45
標準偏差	0.86
中央値	0.09

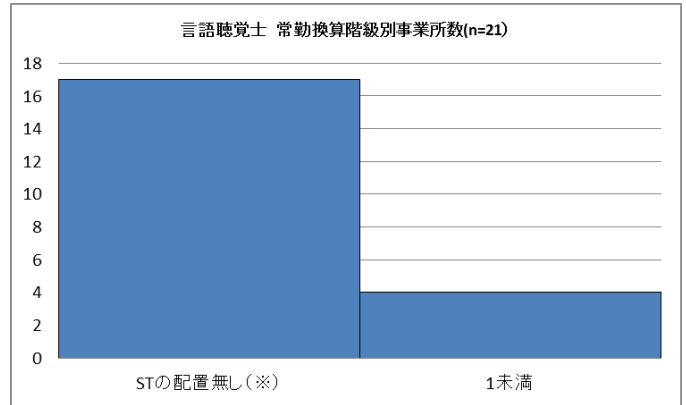
C) 常勤換算人数 (ST)

■言語聴覚士(常勤換算数階級別事業所数)(N=21)

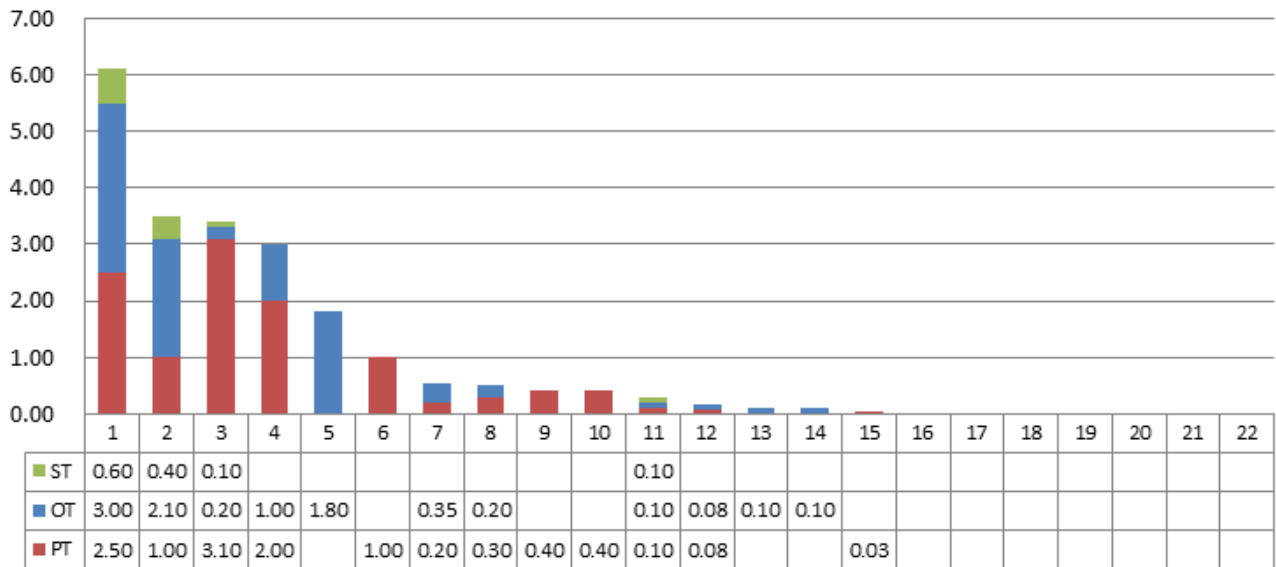
常勤換算数	事業所数	常勤換算数計
STの配置無し(※)	17	0
1未満	4	1.2
計	21	1.2

(※ST以外のリハ職の配置ありでSTの配置無し)

常勤換算数最大値	0.6
常勤換算数最小値	0
1事業所あたりの平均値	0.06
標準偏差	0.15
中央値	0



1ヶ所あたりのリハ専門職常勤換算人数(n=22)



(No. 16~20はPTがいるが常勤換算人数について回答なし。No. 21はOTがいるが常勤換算について回答なし。No. 22はPT・OT・STがいるが常勤換算人数について回答なし)

わかること

- PTは、常勤換算数について回答があった16ヶ所のうち12ヶ所に配置があり、常勤換算人数の合計は11.11人、OTは常勤換算について回答のあった20事業所のうち11ヶ所に配置があり常勤換算人数の合計は9.03人、STは常勤換算について回答のあった21ヶ所のうち4ヶ所に配置があり常勤換算人数の合計は1.2人である。
- 常勤換算人数の平均は、PT0.68人、OT0.45人、ST0.05人である。また、中央値はPT0.25人、OT0.09人、ST0人、標準偏差はPT0.89、OT0.85、ST0.15である。平均値よりも中央値のほうが低く、人数を多く配置している医療機関と少ない医療機関の差がある。
- PT・OT・STの常勤換算数をあわせても1人に満たない医療機関は、8ヶ所である。1人以上配置している医療機関は、6ヶ所である。

(エ) 職種別配置状況

(単位：事業所数)

職種別	常勤専従	常勤兼務	非常勤	合計
PT	4	16	2	12
OT	1	12	3	11
ST	0	4	1	4

(単位：人数)

職種別	常勤専従	常勤兼務	非常勤	合計
PT	7	26	2	35
OT	3	14	7	24
ST	0	5	1	6

※複数職種がいる事業所は重複で計上

わかること

- ・ PTを配置しているのは12ヶ所、OTは11ヶ所、STは4ヶ所である。
- ・ PTは、12事業所に、35人が従事している。35人中7人(20%)は常勤専従で従事しており、26人(74%)は常勤兼務で、2人(5%)は非常勤で従事している。
- ・ OTは11ヶ所に、24人が従事している。24人中3人(12%)は常勤専従で従事しており、14人(58%)は常勤兼務で、5人(29%)は非常勤で従事している。
- ・ STは4ヶ所に、6人が従事しており、6人中5人(83%)は、常勤兼務で従事しており、1人(16%)は非常勤で関与している。
- ・ 常勤兼務で従事しているリハ専門職が多い状況がある。
- ・ 訪問リハビリテーションと比較すると常勤専従で従事するリハ専門職も多い。

(オ) 実施事業所数 (利用者の年齢別)

	事業所数	疾患別内訳					
		脳血管	神経・筋	脊髄損傷	小児疾患	精神	その他
0以上18歳未満	3	1	0	0	2	0	1
18歳以上40歳未満	3	3	0	0	1	0	0
40歳以上65歳未満	13	6	8	3	1	0	7
65歳以上	17	15	14	4	0	0	11

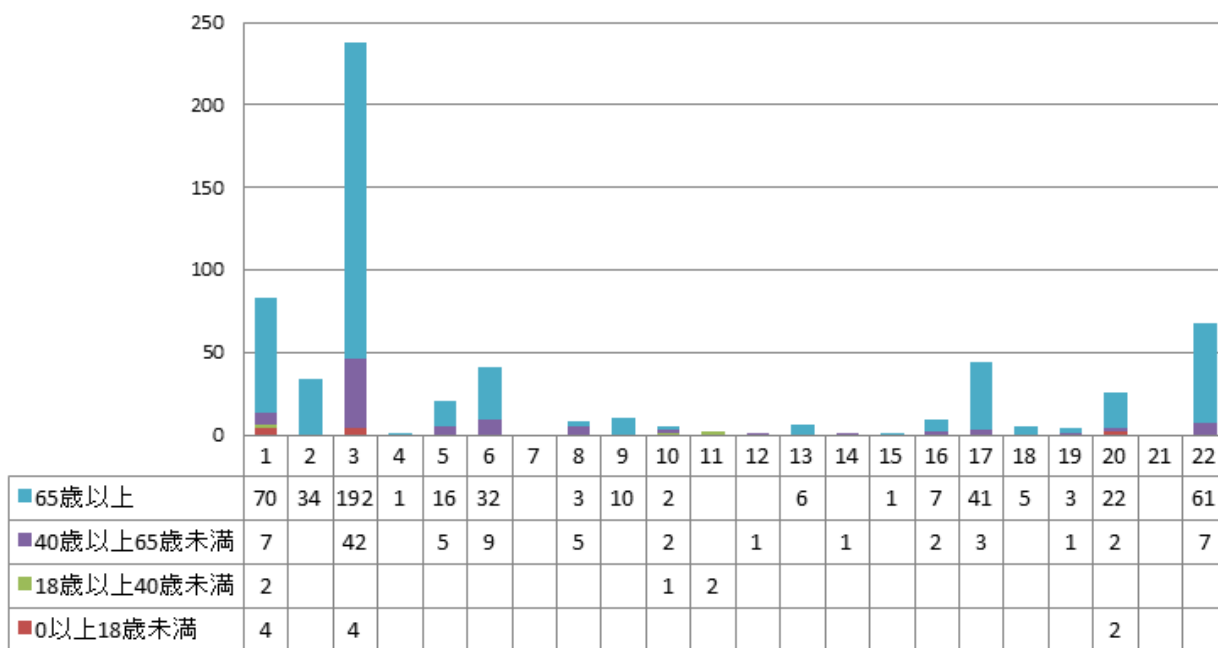
わかること

- ・ 18歳未満の利用者に訪問している医療機関は、22ヶ所中3ヶ所(13%)であり、18歳以上40歳未満の利用者に訪問している医療機関は3ヶ所(13%)、40歳以上65歳未満の利用者に訪問している医療機関は13ヶ所(59%)、65歳以上の利用者に訪問している医療機関は17ヶ所(77%)である。
- ・ 0以上18歳未満の利用者に訪問している医療機関の3ヶ所のうち、小児疾患に対して訪問しているのが2ヶ所であり、脳血管疾患とその他疾患1ヶ所ずつである。
- ・ 18歳以上40歳未満の利用者に訪問している医療機関3ヶ所のうち、脳血管疾患に対して訪問しているのは3ヶ所、小児疾患に訪問しているのが1ヶ所である。
- ・ 40歳以上65歳未満の利用者に訪問している医療機関13ヶ所のうち、神経・筋疾患に訪問しているのは8ヶ所、脳血管疾患6ヶ所、脊髄損傷3ヶ所、小児疾患1ヶ所、その他疾患7ヶ所、である。
- ・ 65歳以上の利用者に訪問している医療機関17ヶ所のうち、脳血管疾患に訪問しているのは15ヶ所、神経・筋疾患14ヶ所、脊髄損傷4ヶ所、その他疾患11ヶ所、である。

(カ) 利用者数

A) 1 事業所あたりの利用者数および年齢別利用者数

1ヶ所あたりの訪問リハ利用者数(年齢分類別)(n=22)



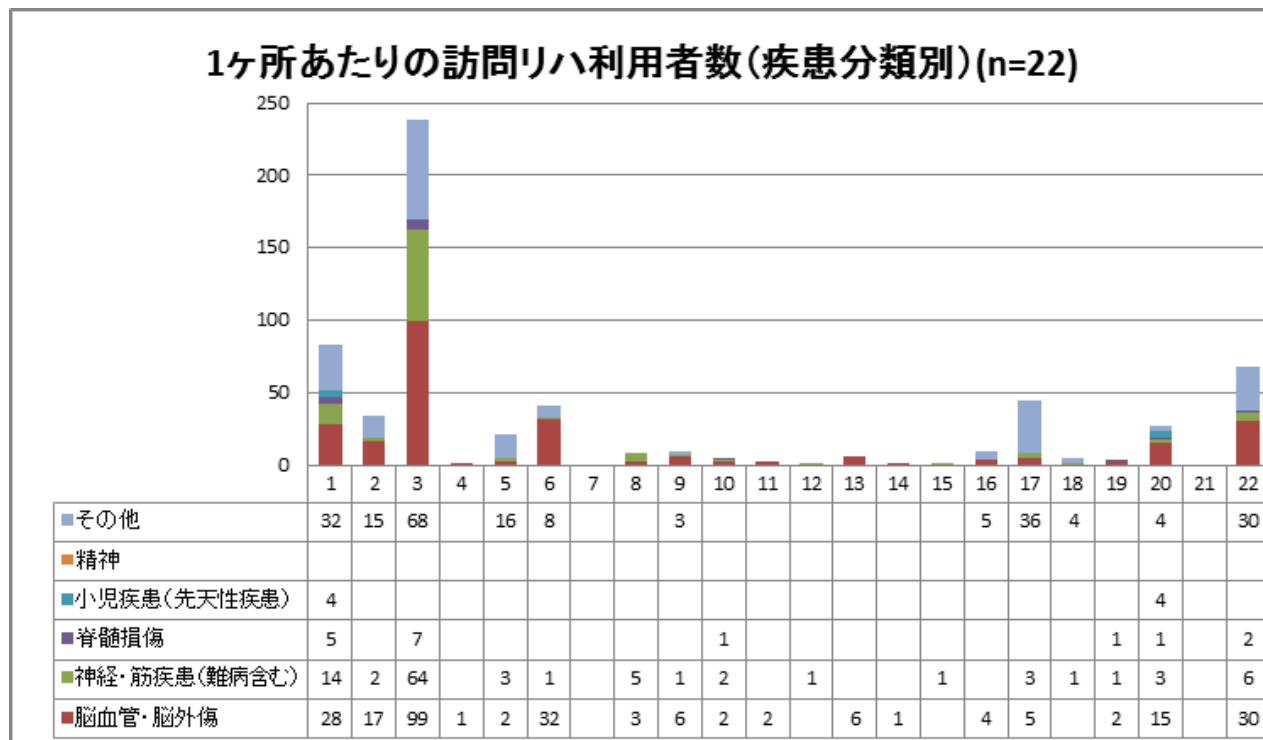
(常勤換算人数が多い順に並べてある。No. 7 は回答なし。No. 21 は利用者なし。)

	0以上18歳未満	18歳以上40歳未満	40歳以上65歳未満	65歳以上	全体
平均	0.50	0.25	4.35	25.30	10.13
最大	4	2	42	192	238
最小	0	0	0	0	0
標準偏差	1.24	0.62	9.05	43.31	33.72
合計	10	5	87	506	608

わかること

- 1ヶ所あたり，1ヶ月に平均9.5人訪問している。
- 利用者の最も多い事業所では238人に訪問している。常勤換算3.4人のリハ専門職がいる事業所である。
- 1ヶ月のうち利用者のいない医療機関は1ヶ所ある。
- 1ヶ月のうち利用者が1人という医療機関は，4ヶ所ある。
- 県全体で1ヶ所あたり608人に訪問している。
- 1ヶ月あたり，18歳未満で10人，18歳以上40歳未満5人，40歳以上65歳未満87人，65歳以上506人に訪問しており，65歳以上の方への訪問が最も多い。
- 608人のうち，238人(39%)は1ヶ所の医療機関が訪問している。
- 訪問している利用者の人数が10人以下の医療機関も21ヶ所中14ヶ所(58%)と多い状況である。

B) 利用者数の疾患別内訳



(常勤換算人数が多い順に並べてある。No. 7は回答なし。No. 21は利用者なし。)

	利用者人数合計※	疾患別内訳					
		脳血管	神経・筋	脊髄損傷	小児疾患	精神	その他
0以上18歳未満	10	1	0	0	5	0	4
18歳以上40歳未満	5	4	0	0	1	0	0
40歳以上65歳未満	87	23	34	4	1	0	25
65歳以上	506	227	75	13	0	0	192
合計	608	255	109	17	7	0	221

わかること

- ・ 利用者数合計は、0歳以上18歳未満は10人(1.6%)、18歳以上40歳未満は5人(0.8%)、40歳以上65歳未満が87人(15%)、65歳以上が506人(83%)である。
- ・ 0歳以上18歳未満の10人のうち、5人(50%)が「小児疾患(先天性疾患)」の利用者であり、4人が(40%)その他疾患、1人(10%)が脳血管疾患の方である。
- ・ 18歳以上40歳未満の5人のうち、4人(80%)が「脳血管・脳外傷疾患」、1人(20%)が「小児疾患(先天性疾患)」の利用者である。
- ・ 40歳以上65歳未満の87人のうち、34人(39%)が「神経・筋疾患(難病含む)」の利用者であり、23人(26%)が「脳血管・脳外傷疾患」、4人(4.5%)が「脊髄損傷」、1人(1%)が「小児疾患(先天性疾患)」,25人(28%)が「その他疾患」の利用者である。
- ・ 65歳以上の506人のうち、227人(44%)が「脳血管・脳外傷疾患」、109人(21%)が「神経・筋疾患(難病含む)」,17人(3%)が「脊髄損傷」、7人(1%)が「小児疾患(先天性疾患)」,221人(43%)が「その他疾患」である。

(キ) 40歳未満の利用者を訪問している5ヶ所の状況

A) 医療機関所在地の圏域別内訳と利用者数

		仙南	仙台 (塩竈)	仙台 (岩沼)	仙台 (黒川)	北部	栗原	登米	東部	気仙沼	仙台市	合計
0以上18 未満	医療機関数		1		1					1		3
	利用者数		4		4					2		10
18以上 40未満	医療機関数		1				1				1	3
	利用者数		2				1				2	5
合計事業所数			1		1		1			1	1	5
合計利用者数			6		4		1			2	2	15

わかること

- 0歳以上18歳未満の利用者に訪問している3ヶ所は、仙台(塩竈)圏域、仙台(黒川)圏域、気仙沼圏域に位置する医療機関である。
- 18歳以上40歳未満の利用者に訪問している3ヶ所は、仙台(塩竈)圏域、栗原圏域、仙台市内に位置する医療機関である。
- 仙台(塩竈)圏域にある医療機関は、0歳以上18歳未満及び18歳以上40歳未満の方に訪問している。

(ク) 訪問エリアと実施日

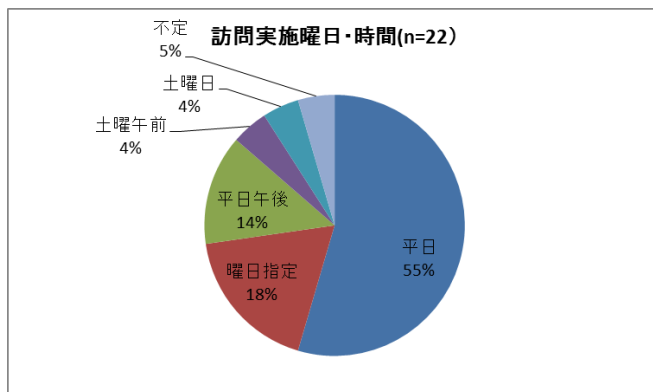
A) 活動区域(訪問エリア): 市町村を訪問エリアとしている医療機関数

圏域	仙南									仙台(塩竈)				
	白石市	角田市	蔵王町	七ヶ宿町	大河原町	村田町	柴田町	川崎町	丸森町	塩竈市	多賀城市	松島町	七ヶ浜町	利府町
訪問エリアとしている医療機関数(n=22)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	5	2	3	5

圏域	仙台(岩沼)				仙台(黒川)				北部				
	名取市	岩沼市	亶理町	山元町	大和町	大郷町	富谷町	大衡村	大崎市	色麻町	加美町	涌谷町	美里町
訪問エリアとしている医療機関数(n=22)	1	1	0	0	2	2	4	2	3	0	0	0	0

圏域	栗原	登米	東部			気仙沼		仙台市				
	栗原市	登米市	石巻市	東松島市	女川町	気仙沼市	南三陸町	青葉区	宮城野区	若林区	太白区	泉区
訪問エリアとしている医療機関数(n=22)	2	1	3	1	0	1	1	4	5	2	4	2

B) 訪問実施曜日・時間



(グラフ中の略語)

平日: 月~金

土曜午前: 月~金及び土曜日の午前中

土曜日: 月~土

土曜日・日曜日: 月~日

曜日指定: 特定の曜日のみ訪問対応

平日午後: 月~金の午後

わかること

- ・ 訪問時実施曜日・時間は、訪問看護ステーションや訪問リハビリテーション事業所と比較して、訪問する曜日を指定して実施しているところが多い。
- ・ 訪問看護ステーションや訪問リハビリテーション事業所による訪問サービス資源が少ないエリアに訪問している状況もある。

④ 一次調査結果のまとめ

- ・ 平成 18 年 3 月に宮城県保健福祉部医療整備課が発行した宮城県訪問リハビリテーション調査研究事業報告書にて記載されている内容と比較すると（下記参考参照）、リハ専門職による訪問サービスを実施している事業所も増加し、利用者数も増加している。
- ・ 資源の量には差があるが、県内のどの場所においてもリハ専門職による訪問サービスを利用できるようになっている。
- ・ 県全体の利用者数で見ると、65 歳以上の利用者が圧倒的に多いが、あらゆる年代の利用者に対して訪問している状況はある。
- ・ 訪問看護ステーションにおいて、リハ専門職が障害児者（40 歳未満の方々）に訪問サービスを実施しているのは 29 事業所あり、利用者人数が多いところも一部あるが、1 事業所で障害児者に訪問している人数は平均 2 人以下である。
- ・ リハ専門職による障害児者への訪問サービスは、数は少ないが、地域の要望に対応して、取り組まれてきていることがわかる。

参考

病院		訪問リハビリテーション実態調査 (平成 17 年 8 月)	本調査 (平成 26 年 9 月)
調査対象数		県内の全病院 150 ヶ所 回収 115, 回収率 76.6%	在宅患者訪問リハビリテーション指導 管理料算定医療機関 61 ヶ所 回収 36, 回収率 59%
従事している 人数(常勤 換算人数)	理学療法士	26.1 人	11.1 人
	作業療法士	2.0 人	9.0 人
	言語聴覚士	2.0 人	1.2 人
利用者数		実人数 79 人 (平成 17 年 7 月)	実人数 608 人 (平成 26 年 8 月)

訪問看護事業所		訪問リハビリテーション実態調査 (平成 17 年 8 月)	本調査 (平成 26 年 9 月)
事業所数		100 ヶ所 回収 74 件, 回収率 74%	120 ヶ所 回収 87 件, 回収率 73%
従事している 人数(常勤 換算人数)	理学療法士	20.8 人	70.9 人
	作業療法士	25.9 人	40.1 人
	言語聴覚士	0.0 人	1.5 人
利用者数		実人数 583 人 (平成 17 年 7 月)	実人数 2,381 人 (平成 26 年 8 月)

3 二次調査結果

(1) 二次調査対象

① 7事業所の地域別内訳

仙台圏域：1事業所、北部圏域：2事業所、石巻圏域：1事業所、仙台市内：3事業所

② ヒアリング対象者

調査の趣旨を説明し、訪問した当日に対応して頂いた7事業所9名のリハ専門職（PT5名、OT4名）

(2) 現状

7事業所から聴取した結果をまとめると以下のとおりである。

① 担当者について

- ・ 事業所の中で、障害児者（特に18歳未満の方）に訪問する担当者を特定のスタッフに定めている事業所と、従事するスタッフで均等に担当している事業所がある。
- ・ 事業所内において、基本的に一人の担当を決めてその担当者が訪問している事業所と、一人の利用者に対して常に複数名で担当しており、担当者間で利用者への対応方法等について情報交換や検討をしながら進めている事業所がある。
- ・ 訪問サービスに従事している担当者は、小児（専門）医療機関での勤務経験があるスタッフがいる事業所もあるが、高齢者支援に主に従事していたスタッフが担当している事業所もある。
- ・ 前職として、特定の進行性疾患について知見がある医療機関での勤務経験があり、特定の進行性疾患の方を主な対象としている事業所で訪問サービスに従事している担当者もいる。
- ・ 小児（専門）医療機関や特定の進行性疾患について知見がある医療機関での勤務経験があるスタッフが、勤務経験がないスタッフの訪問場面に時々同行しながら対応している事業所もある。

② 利用者の特徴

- ・ すべての事業所における利用者は、何らかの疾患・外傷によって運動障害がある方、または、運動発達に遅れがある方である。
- ・ 利用者について大別すると、①先天性疾患の方、②乳幼児期の脳症・外傷により重度運動障害を伴う方、③進行性疾患（筋ジストロフィー症、パーキンソン病等）の方、④若年での病気や外傷により重度運動障害を伴う方に分けられる。
- ・ 上記の分類①や②の方が多く、障害像としては、重度の運動障害と知的障害を伴う方（重症心身障害児者）へ訪問している事業所がほとんどである。利用者人数は少ないが、運動障害が軽度の児（運動発達の遅れがあるため訪問リハの利用に至るが、歩けるようになる児）に訪問している事業所もある。利用者の年齢は、乳児期から成人期まで幅広い。複数の医療機関に通っている方も多く、小児専門医療機関で月1回程度、外来リハビリテーションを受けている方がほとんどである。医療的ケアが必要で、訪問看護サービスも利用している方もいる。通所型の障害福祉サービス等を利用している方もいる。
- ・ ③進行性疾患の方へは、まだ自力で移動することができるが、「転倒しやすくなった」「立ち上がるのが難しくなってきた（生活が難しくなってきた）」という段階から訪問している。対象者の年齢は10代からと幅広い。障害福祉サービス（ヘルパーや訪問看護等）を利用しながら、就労して生活している方もいる。疾患の特徴から家族性で発症することもあり、家族内で複数名へ訪問が必要な方もいる。
- ・ ④若年での病気や外傷により重度運動障害を伴う方は、医療機関を退院した直後から訪問リハが開始となる方が多い。この場合の依頼元は、地域の回復期病棟等を持つ医療機関となっている。稀に、しばらく訪問リハ以外のサービスを利用しながら自宅で生活しており、状態の悪化等により訪問リハが開始となる方もいる。

③ 利用までの経緯（依頼元・処方元）

- ・ 依頼元（依頼のきっかけ）は、①医療機関の連携室が中心である事業所、②近隣の相談支援事業所が中心である事業所、③近隣の市町村保健師が中心である事業所、④保護者が自らが電話をかけてくる事業所、の大きく4つに分かれている。
- ・ 事業所により（地域により）依頼元の特徴には差がある。地域の社会資源の状況等によるものと思われるが、今回の調査では、その違いの内容は明らかに出来なかった。
- ・ 未就学児による訪問サービスの利用は、医療機関の連携室や市町村保健師からの紹介がきっかけになっていることが多いが、学童期から（小学部高学年や中等部・高等部から）の訪問サービスの利用は、保護者ネットワーク（ロコミ）の中で訪問サービスを認識することがきっかけになっていることが多い。
- ・ 障害児者への支援については、近年支援に取り組むようになった事業所と、以前から取り組んでいる事業所、立ち上げと同時に取り組んでいる事業所に分かれている。また、近年障害児者への支援に取り組むようになった事業所は、相談支援専門員からの働きかけがあった事業所である。
- ・ 処方元となっている医療機関は、各事業所に共通して挙げられている小児専門医療機関と、本人が退院している地域の中核的な医療機関、往診を担っている医療機関であることが多い。進行性疾患の場合は、その疾患等に知見のある医療機関であることが多い。少数であるが、小児科を持つ地域の医療機関からの場合もある。

④ 利用状況（利用年数・利用頻度・1回あたりの時間）

- ・ 訪問頻度として、週1回で訪問している事業所と、隔週や月1回の頻度で訪問している事業所がある。
- ・ 訪問頻度は、利用者の状況によって定めている事業所と、事業所において訪問できる回数上限を定めている事業所がある。
- ・ すべての事業所は、支援目標を立て支援に入っているが、状況が変化の中で支援目標も変化し、結果的に長期で利用している方が多い。
- ・ 1回あたり、60分程度の訪問時間とする事業所が多い。

⑤ 支援内容（処方内容、本人への支援内容・家族への支援内容、他機関連携内容等）

- ・ 支援は、「本人への支援」と「家族への支援」の両者の視点で提供されている。事業所の特徴（対象者の特徴）によって、「本人への支援」と「家族への支援」の重みづけには差があるが、どの事業所も両者の視点で提供している。
- ・ 「本人への支援」の実施内容は、本人の身体機能を向上させるような促し（うつぶせで前腕支持して首を挙げる、バルーンを用いて身体の反応を引き出す、足底を付けて下肢で踏ん張る機会を作る等）や二次障害の予防（身体を動かす機会の設定、拘縮予防）、体が動かしやすくなるような支援（リラクゼーションやマッサージ等）、補装具（装具・座位保持装置・車椅子）の適合・調整に関する支援、生活環境の適合・調整に関する支援（ベッド上での姿勢、屋内での移動方法、トイレの方法、入浴方法）、利用できるサービスや制度についての情報提供等である。
- ・ 「家族への支援」の実施内容は、小児専門医療機関で助言された内容についてその意味の解釈を助ける支援、子どもと一緒に遊びながら発達の伸びを確認し保護者と共有することや、移乗方法や食事方法等の介助の仕方を保護者と共に検討することで、子どもの障害特性や生活上配慮するとよいことについての理解を深める支援、福祉用具等の選び方・使い方・介助方法等に関する助言である。
- ・ 未就学児の支援に関しては、「家族への支援」への重み付けが大きいようである。繰り返し訪問する中で、保護者とは様々な観点から話をするようになり、保護者の相談相手として機能している事業所もある。
- ・ 保護者・家族から収集した情報（ニーズ等）（例：仕事に復帰したいと思っているが預かってくれるところがあるか、サービスを見学した感想、最近あった出来事とそれによって気持ちなどがどのように変わったか等）を、関係者（市町村保健師等）へ伝える役割をしている事業所もある。

- ・ 本人・家族または、支援者からの要請があれば、(無報酬であるが) 本人が利用している訪問リハ以外の通所サービス事業所や特別支援学校に赴き、本人が過ごしやすい環境になるよう助言(休み時間の過ごし方(臥位になる時間を作る)、スクールバスへの乗せ方等)する事業所もある。

⑥ 支援する上での課題(不安なこと、不安の解消法等)

- ・ 小児(専門)医療機関での勤務経験がない方が訪問を実施している事業所では特に、障害児者を支援することに対して試行錯誤しながら、個人の努力で支援を行っている。子どもの支援を行っている医療機関や事業所の取り組みを知る機会が欲しいと感じている。
- ・ 利用者は、様々な医療機関を受診しており様々な助言を受けてくるが、訪問リハの場面で、その内容について相談されることも多く、医療機関で助言された内容の真意がよめないことや、医療機関で助言された内容との齟齬により混乱があることを想定し、どのように答えたらよいか躊躇することもある。
- ・ 小児(専門)医療機関での勤務経験がない方が訪問を実施している事業所では特に、子どもの発達を促していくような関わりや発達レベルに合わせた支援が難しいと感じている。子どもの支援を主に行っている医療機関での取り組みを知り、訪問リハではどのような支援ができるのか、どのように連携するのがよいのかを知りたいと思っている。
- ・ 事業所によっては、訪問枠の関係やエリアの関係で、障害児者からの依頼を断ることもある。また、多くの事業所は、特定の依頼元からの依頼であり、地域には、訪問リハに繋がるとよいが、繋がらない方がまだたくさんいると思われる。

⑦ 必要な取り組み

- ・ 高齢者支援とは別な形で、障害児者の支援に関することをテーマとした研修の機会や情報提供の機会があったほうが、障害児者支援に取り組みやすくなる。
- ・ 訪問リハに従事するリハ専門職種での情報交換する仕組みや支援状況に関する情報共有は、利用者を紹介することにも繋がる。
- ・ 相談支援事業所や市町村保健師へ周知は必要。

(3) 課題

今回の調査は、実際に障害児者に訪問サービスを実施している事業所に対して調査を実施し、障害児者に対する訪問サービスの実態及び実施する上での課題等を把握したものであり、『リハ専門職による訪問サービスを必要とする方は、まだ潜在的にいるだろう』という仮説のもと、リハ専門職による訪問サービスを必要とする方へサービスが届くようになるための課題を検討した。課題は、以下の4点にまとめられる。

現状では、利用者の多くは重症心身障害児者であり、小児専門医療機関(拓桃医療療育センター、子ども病院、大学病院等)の定期受診や定期的リハビリテーションを受けている方である。リハ専門職による訪問サービスを必要とする方にサービスが届くようになるためには、訪問サービス担当者と小児専門医療機関スタッフの連携を促進し、小児専門医療機関での勤務経験がない方であっても、求めに応じてサービスを提供し、訪問サービスの中でのリハ専門職の役割を發揮できるようバックアップしていく必要があると思われる。特に、小児専門医療機関には、現状を伝え、効果的な対策を共に検討していくことが必要と思われる。

障害者支援に必要な視点・知識・技術は、高齢者支援に必要なものとは少し違っており、試行錯誤しながら支援をしているとの意見も多く挙げられていた。実際に、リハ専門職の知識・技術の共有や研鑽の場は、高齢者支援と比較して障害児者支援については少ないのが現状であり、どこでどのような支援をしているのかについての情報共有の機会も少ないのが現状である。障害児者に必要な支援・知識・技術が、共有・研鑽できるような体制を構築し、研修等の機会を設定していくことが必要である。

事業所によって、依頼元となる機関には差があり、依頼元によって、利用に至る利用者の特徴が異なっている状況があるようである。依頼元となる機関の“リハ専門職が訪問サービスの中で実施できること”の認識により差が生じているように思われる。現状として、リハ専門職が実施している内容や機能している内容について、依頼元となる市町村や相談支援事業所等に理解してもらい、訪問サービスが必要な方へ情報提供等、活用を促してもらうことが必要と思われる。

現状では、リハ専門職による訪問サービスの利用者は、小児専門医療機関の定期受診を受けている方である。訪問サービスの利用については、医師による処方が必要であり、医療機関のスタッフに、訪問リハサービスを実施している事業所等について理解してもらうことで、必要な方へ情報提供してもらえる（処方してもらう）よう働きかけることが必要である。

(4) 対策

上記した課題に対応して、下記3点に示すリハ専門職による訪問サービスを必要とする方へサービスが届くようになるために必要な取り組みを実施していきたい。

なお、今回まとめた課題と対策は、一次調査結果「0歳以上18歳未満」及び「18歳以上40歳未満」の両者に訪問サービスを実施していると回答した訪問看護ステーション15事業所のうち、7事業所から聴取した結果からまとめたものであり、県内全ての課題を把握できたわけではない。今後は、これらの課題の妥当性を確認しながら、よりいっそう現状把握を行い、現場にとって効果的な、当センターの事業を企画し進める必要があると考えている。

- ① 障害児者支援を行うリハ専門職のネットワーク構築・スキルアップに向けての取り組み
 - (ア) 小児専門医療機関（拓桃医療療育センター）等との課題の共有と対策の検討
 - (イ) 障害児者支援に関することをテーマとした研修や情報交換の機会の設定
 - (ウ) 障害児者の訪問サービスに従事する職員が定期的に情報交換できる仕組みづくりに向けた模索
- ② 依頼元となる市町村・相談支援事業所等への周知・啓発
 - (ア) リハ専門職がいる事業所についての啓発
 - (イ) 訪問リハの対象者とその効果についての啓発
- ③ 障害児者の処方元となっている医療機関への周知・啓発
 - (ア) リハ専門職のいる事業所一覧の啓発

(5) 二次調査結果のまとめ (現状・課題・対策)

<p>現状 (要領, 調査内容順に 記載)</p>	<p>【担当者について】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業所の中で、障害児者（特に18歳未満の方）に訪問する担当者を特定のスタッフに定めている事業所と、従事するスタッフで均等に担当している事業所がある。 ・ 事業所内において、基本的に一人の担当を決めてその担当者が訪問している事業所と、一人の利用者に対して常に複数名で担当しており、担当者間で利用者への対応方法等について情報交換や検討をしながら進めている事業所がある。 ・ 訪問サービスに従事している担当者は、小児（専門）医療機関での勤務経験があるスタッフがいる事業所もあるが、高齢者支援に主に従事していたスタッフが担当している事業所もある。 ・ 前職として、特定の進行性疾患について知見がある医療機関での勤務経験があり、特定の進行性疾患の方を主な対象としている事業所で訪問サービスに従事している担当者もいる。 ・ 小児（専門）医療機関や特定の進行性疾患について知見がある医療機関での勤務経験があるスタッフが、勤務経験がないスタッフの訪問場面に時々同行しながら対応している事業所もある。
	<p>【利用者の特徴】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ すべての事業所における利用者は、何らかの疾患・外傷によって運動障害がある方、または、運動発達に遅れがある方である。 ・ 利用者について大別すると、①先天性疾患の方、②乳幼児期の脳症・外傷により重度運動障害を伴う方、③進行性疾患（筋ジストロフィー症、パーキンソン病等）の方、④若年での病気や外傷により重度運動障害を伴う方に分けられる。 ・ 上記の分類①や②の方が多く、障害像としては、重度の運動障害と知的障害を伴う方（重症心身障害児者）へ訪問している事業所がほとんどである。利用者人数は少ないが、運動障害が軽度の児（運動発達の遅れがあるため訪問リハの利用に至るが、歩けるようになる児）に訪問している事業所もある。利用者の年齢は、乳児期から成人期まで幅広い。複数の医療機関に通っている方も多く、小児専門医療機関で月1回程度、外来リハビリテーションを受けている方がほとんどである。医療的ケアが必要で、訪問看護サービスも利用している方もいる。通所型の障害福祉サービス等を利用している方もいる。 ・ ③進行性疾患の方へは、まだ自力で移動することができるが、「転倒しやすくなった」「立ち上がるのが難しくなってきた（生活が難しくなってきた）」という段階から訪問している。対象者の年齢は10代～と幅広い。障害福祉サービス（ヘルパーや訪問看護等）を利用しながら、就労して生活している方もいる。疾患の特徴から家族性で発症することもあり、家族内で複数名へ訪問が必要な方もいる。 ・ ④若年での病気や外傷により重度運動障害を伴う方は、医療機関を退院した直後から訪問リハが開始となる方が多い。この場合の依頼元は、地域の回復期病棟等を持つ医療機関となっている。稀に、しばらく訪問リハ以外のサービスを利用しながら自宅で生活しており、状態の悪化等により訪問リハが開始となる方もいる。
	<p>【利用までの経緯】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 依頼元（依頼のきっかけ）は、①医療機関の連携室が中心である事業所、②近隣の相談支援事業所が中心である事業所、③近隣の市町村保健師が中心である事業所、④保護者が自らが電話をかけてくる事業所、の大きく4つに分かれている。 ・ 事業所により（地域により）依頼元の特徴には差がある。地域の社会資源の状況等によるものと思われるが、今回の調査では、その違いの内容は明らかに出来なかった。 ・ 未就学児による訪問サービスの利用は、医療機関の連携室や市町村保健師からの紹介がきっかけになっていることが多いが、学童期から（小学部高学年や中等部・高等部から）の訪問サービスの利用は、保護者ネットワーク（ロコミ）の中で訪問サービスを認識することがきっかけになっていることが多い。 ・ 障害児者への支援については、近年支援に取り組むようになった事業所と、以前から取り組んでいる事業所、立ち上げと同時に取り組んでいる事業所に分かれている。また、近年障害児者への支援に取り組むようになった事業所は、相談支援専門員からの働きかけがあった事業所である。 ・ 処方元となっている医療機関は、各事業所に共通して挙げられている小児専門医療機関と、本人が退院している地域の中核的な医療機関、往診を担っている医療機関であることが多い。進行性疾患の場合は、その疾患等に知見のある医療機関であることが多い。少数であるが、小児科を持つ地域の医療機関からの場合もある。
	<p>【利用状況】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問頻度として、週1回で訪問している事業所と、隔週や月1回の頻度で訪問している事業所がある。 ・ 訪問頻度は、利用者の状況によって定めている事業所と、事業所において訪問できる回数上限を定めている事業所がある。 ・ すべての事業所は、支援目標を立て支援に入っているが、状況が変化の中で支援目標も変化し、結果的に長期で利用している方が多い。 ・ 1回あたり、60分程度の訪問時間とする事業所が多い。
	<p>【支援内容】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援は、「本人への支援」と「家族への支援」の両者の視点で提供されている。事業所の特徴（対象者の特徴）によって、「本人への支援」と「家族への支援」の重みづけには差があるが、どの事業所も両者の視点で提供している。 ・ 「本人への支援」の実施内容は、本人の身体機能を向上させるような促し（うつぶせで前腕支持して首を上げる、バルーンを用いて身体の反応を引き出す、足底を付けて下肢で踏ん張る機会を作る等）や二次障害の予防（身体を動かす機会の設定、拘縮予防）、体が動かしやすくなるような支援（リラクゼーションやマッサージ等）、補装具（装具・座位保持装置・車椅子）の適合・調整に関する支援、生活環境の適合・調整に関する支援（ベッド上での姿勢、屋内での移動方法、トイレの方法、入浴方法）、利用できるサービスや制度についての情報提供等である。 ・ 「家族への支援」の実施内容は、小児専門医療機関で助言された内容についてその意味の解釈を助ける支援、子どもと一緒に遊びながら発達の伸びを確認し保護者と共有することや、移乗方法や食事方法等の介助の仕方を保護者と共に検討することで、子どもの障害特性や生活上配慮するとよいことについての理解を深める支援、福祉用具等の選び方・使い方・介助方法等に関する助言である。 ・ 未就学児の支援に関しては、「家族への支援」への重み付けが大きいようである。繰り返し訪問する中で、保護者とは様々な観点から話をするようになり、保護者の相談相手として機能している事業所もある。 ・ 保護者・家族から収集した情報（ニーズ等）（例：仕事に復帰したいと思っているが預かってくれるところがあるか、サービスを見学した感想、最近あった出来事とそれによって気持ちが変わったか等）を、関係者（市町村保健師等）へ伝える役割をしている事業所もある。 ・ 本人・家族または、支援者からの要請があれば、（無報酬であるが）本人が利用している訪問リハ以外の通所サービス事業所や特別支援学校に赴き、本人が過ごしやすい環境になるよう助言（休み時間の過ごし方（臥位になる時間を作る）、スクールバスへの乗せ方等）する事業所もある。

【支援する上での課題】	<ul style="list-style-type: none"> 小児（専門）医療機関での勤務経験がない方が訪問を実施している事業所では特に、障害児者を支援することに対して試行錯誤しながら、個人の努力で支援を行っている。子どもの支援を行っている医療機関や事業所の取り組みを知る機会が欲しいと感じている。 利用者は、様々な医療機関を受診しており様々な助言を受けてくるが、訪問リハの場面で、その内容について相談されることも多く、医療機関で助言された内容との齟齬により混乱があることを想定し、どのように答えたらよいか躊躇することもある。 小児（専門）医療機関での勤務経験がない方が訪問を実施している事業所では特に、子どもの発達を促していくような関わりや発達レベルに合わせた支援が難しいと感じている。子どもの支援を主に行っている医療機関での取り組みを知り、訪問リハではどのような支援ができるのか、どのように連携するのがよいのかを知りたいと思っている。 事業所によっては、訪問枠の関係やエリアの関係で、障害児者からの依頼を断ることもある。また、多くの事業所は、特定の依頼元からの依頼であり、地域には、訪問リハに繋がるとよいが、繋がらない方がまだたくさんいると思われる。
【必要な取り組み】	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者支援とは別な形で、障害児者の支援に関することをテーマとした研修の機会や情報提供の機会があったほうが、障害児者支援に取り組みやすくなる。 訪問リハに従事するリハ専門職種での情報交換する仕組みや支援状況に関する情報共有は、利用者を紹介することにも繋がる。 相談支援事業所や市町村保健師へ周知は必要。

7事業所の調査結果から見えた（リハ専門職による訪問サービスを必要とする方へサービスが届くようになるための）課題	<ul style="list-style-type: none"> 訪問リハスタッフが、障害児者を支援することに対して、自信を持ってその役割を發揮できるよう、小児専門医療機関（拓桃医療療育センター、子ども病院、大学病院等）にもバックアップしてもらえるよう働きかけることが必要。 障害児者支援に必要な視点・知識・技術が、共有・研鑽できるような体制を構築し、研修等の機会を設定していくことが必要。 障害児者の支援について訪問リハが機能している点について、依頼元となる市町村・相談支援事業所に理解してもらい、訪問サービスが必要な方への情報提供等活用を促してもらうことが必要。 障害児者の処方元となっている医療機関のスタッフに、訪問リハサービスを実施している事業所等について理解してもらうことで、必要な方へ情報提供してもらえる（処方してもらう）よう働きかけることが必要。
---	--

7事業所の調査結果から見えた課題に対する対策（案）	<ol style="list-style-type: none"> 障害児者支援を行うリハ専門職のネットワーク構築・スキルアップに向けての取り組み <ol style="list-style-type: none"> 小児専門医療機関（拓桃医療療育センター）等との課題の共有と対策の検討 障害児者支援に関することをテーマとした研修や情報交換の機会の設定 障害児者の訪問サービスに従事する職員が定期的に情報交換できる仕組みづくりに向けた模索 依頼元となる市町村・相談支援事業所等への周知・啓発 <ol style="list-style-type: none"> リハ専門職がいる事業所についての啓発 訪問リハの対象者とその効果についての啓発 障害児者の処方元となっている医療機関への周知・啓発 <ol style="list-style-type: none"> リハ専門職のいる事業所一覧の啓発
---------------------------	---

リハビリテーション専門職による訪問サービスの実施状況調査要領

1 目的

リハビリテーション専門職（以下「リハ専門職」という）が、障害児者への訪問サービスを実施している事業所を把握し、地域リハの推進に活用するものです。また、その情報を周知することで、リハ専門職による訪問サービスを必要とする方へサービスが届くことの一助にするものです。

2 調査時期

平成26年9月11日（木）から平成26年9月26日（金）

3 調査対象

- (1) 健康保険法第88条第1項による指定及び介護保険法第70条第2項による指定を受けている県内（仙台市内を含む）の訪問看護ステーション及び訪問リハビリテーション事業所
- (2) 県医療整備課の調査で平成25年9月時点で在宅患者訪問リハビリテーション指導管理料を算定していると回答した医療機関

4 方法

県内（仙台市内を含む）の訪問看護ステーション及び訪問リハビリテーション事業所138ヶ所及び、在宅患者訪問リハビリテーション指導管理料を算定している医療機関61ヶ所に対し、別紙調査票を送付し、FAXにより回収する。

5 調査内容

アンケートによる調査：別紙調査票

- (1) リハ専門職の職種と従業員数等
- (2) 事業所の訪問エリア
- (3) 対象者の状況とその割合（年齢・疾患（障害）別）

6 結果の活用の仕方

リハ専門職による訪問サービスを実施している事業所等一覧（障害児・障害者への対応実績の有無、活動区域、実施曜日・時間を記載）の作成、関係機関・事業所への周知、ホームページでの公表

7 2次調査の実施予定

アンケートによる調査により、リハ専門職の関与が確認され、かつ、障害児者への支援を行っている事業所等のリハ専門職については、2次調査を予定しておりますので、その際は御協力をよろしくお願いします。

〈ファクシミリ施行〉

宛先 宮城県リハビリテーション支援 センター リハビリテーション 支援班 武者・藤田 行 FAX 022-784-3593	件名 リハビリテーション専門職による訪問サー ビスの実施状況調査 (回答)	発信日 年 月 日 発信者 (事業所名) _____ (発信者) _____
---	---	---

事業所名称 _____ 記入者名 _____
サービス種別：訪問看護 ・ 訪問リハ ・ その他 _____ 電話番号 _____

1 貴医療機関または事業所で訪問サービスに従事している職員の状況についてお伺いします。訪問サービスに従事している職員の職種と従業員数、常勤換算数(※)を教えてください。

	従業員数 (人)			常勤換算 後の人数 (人)
	常勤専従	常勤兼務	非常勤	
看護師・准看護師				
理学療法士				
作業療法士				
言語聴覚士				
その他				
合計				

※常勤換算数：通常の1週間の勤務時間数を貴法人の常勤の従業員が従事すべき時間数で割った数を記載してください。(小数点第2位を切り捨て)

記載なし → この設問で終了になります。このまま返信願います。御協力ありがとうございました。

記載あり → 2～4の設問に御協力願います。

2 平成26年8月の1ヶ月間の貴医療機関または事業所における訪問サービスの利用者総数及びリハビリテーション専門職(理学療法士・作業療法士・言語聴覚士)が訪問サービスを行った人数、利用者の年齢・疾患を教えてください。なお、疾患が重複している場合は、主たる疾患でご記入願います。

- ① 貴事業所の利用者総数(実人数) _____ 名
② 内訳

年齢分類	疾患分類 リハ専門職が 訪問した人数	脳血管・ 脳外傷	神経・筋 疾患(難病 含む)	脊髄損傷	小児疾患 (先天性疾 患)	精神	その他
18歳以上40歳未満	名	名	名	名	名	名	名
40歳以上65歳未満	名	名	名	名	名	名	名
65歳以上	名	名	名	名	名	名	名

3 貴医療機関または事業所における活動についてお伺いします。

- (1) 活動区域(訪問エリア)を教えてください。市町村名、区名、旧市町村名などでお書き下さい。
()
- (2) 訪問業務実施曜日・時間を教えてください。(例. 月～金, 9:00～17:00, 土日祝休, 1/1～3休)
()

4 調査票から得られた結果は、市町村や相談支援事業所等に周知すると共に、ホームページ上での公開を予定しております。情報公開の同意について、当てはまるものに☑をし、その理由を教えてください。

- 同意する
- 情報公開は難しい(理由: _____)
- 情報公開には条件がある(条件: _____)

御協力ありがとうございました

リハビリテーション専門職による訪問サービスの実施状況調査（二次調査）要領

1 目的

リハビリテーション専門職（理学療法士，作業療法士，言語聴覚士），（以下「リハ専門職」という。）による障害児者に対する訪問サービスの実態（利用状況，支援経緯，支援内容等）及びリハ専門職が訪問サービスを実施する上での課題を把握し，課題解決のための対策について検討すること。また，リハ専門職による訪問サービスが必要な方にサービスが届くようになるために必要な取り組みについて検討するための情報収集。

2 調査時期

平成27年2月～3月

3 調査対象

平成26年9月に当センターで実施したリハビリテーション専門職による訪問サービスの実施状況調査にて，リハビリテーション専門職の所在が確認でき，「0歳以上18歳未満」及び「18歳以上40歳未満」の両者に訪問サービスを実施していると回答した15事業所のうち，実施件数及び所在地域を考慮し抽出した8事業所

4 調査方法

事業所を訪問し，調査内容について質問にて聴取する。

5 調査内容

- (1) 担当者について
- (2) 利用者の特徴
- (3) 利用までの経緯（依頼元・処方元）
- (4) 利用状況（利用年数・利用頻度・1回あたりの時間）
- (5) 支援内容（処方内容，本人への支援内容・家族への支援内容，他機関連携内容等）
- (6) 支援する上での課題（不安なこと，不安の解消法等）
- (7) 必要な取り組み

6 結果のまとめかた・活用方法

- ・ 把握した情報から，現状・課題・対策を整理し，平成27年度以降の地域リハビリテーション推進に係る事業に活かす。
- ・ 把握した情報及び整理した情報については，関係機関（依頼元となる機関（市町村・相談支援事業所等），処方元となる医療機関，職能団体，県機関等）と共有し，今後の対策を検討する材料とする。